令和５年度

事業報告書

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

日本赤十字社静岡県支部

Mission statement

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

人　道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
公　平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
中　立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
独　立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
奉　仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
単　一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

目　　次

Ⅰ　支部事業・一般会計決算概要

1　災害救護活動 ……1
2　赤十字看護師養成事業 ……11
3　赤十字講習普及活動 …… 12
4　赤十字奉仕団活動 ……17
5　青少年赤十字活動 ……25
6　国際活動 ……30
7　社業振興事業 ……33
8　評議員会 ……40
9　一般会計決算概要 ……41

Ⅱ　医療事業・医療施設特別会計決算概要

1　静岡赤十字病院 ……44
2　浜松赤十字病院 ……47
3　伊豆赤十字病院 ……50
4　引佐赤十字病院 ……53
5　裾野赤十字病院 ……56

Ⅲ　血液事業概要

静岡県赤十字血液センター ……59

Ⅳ　資　　料

1　静岡県支部役職員名簿・奉仕者組織役員名簿 ……63
2　令和５年度主要行事一覧 …… 68
3　日本赤十字社静岡県支部の組織及び沿革 ……69
4　日本赤十字社静岡県支部施設一覧 ……72
5　医療施設概況 ……73

Ⅰ　支部事業・一般会計決算概要

静岡県支部は、地区分区、協賛委員、奉仕団、有功会、ボランティア及び管内各施設などと連携して赤十字活動を行っている。

本年度は、新型コロナウイルスの５類感染症移行に伴い、with コロナでの対応を講じながら、災害救護、赤十字講習、奉仕団、青少年赤十字等の事業を行った。

また、事業活動の財源となる社資は、概ね予算どおり確保することができた。

１　災害救護活動

日本赤十字社の災害救護活動は、赤十字の使命に基づいた人道的任務として行う事業である。同時に国が認める救護団体としての活動でもあり「災害対策基本法」をはじめ「災害救助法」や「国民保護法」では、国、県または市町の行う業務に対する協力義務が定められている。

静岡県支部では、これらの災害救護活動に備えて、法律に基づいた「静岡県支部防災業務計画」や「静岡県支部国民保護救護計画」を策定している。加えて本社作成の「東海地震、東南海・南海地震、南海トラフ地震、首都直下地震及び日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震の対応計画」と静岡県発表の「静岡県第４次地震被害想定」を踏まえ、災害に即時対応できるよう常備救護班を編成し、訓練や研修を行い、救護装備を整備するなど、救護体制の強化・充実を図っている。

さらに、日常の火災や風水害等による住家の焼失、損壊などの被災者に対して、災害救援品を交付する活動を続けている。

（１）災害への対応

ア 令和５年６月２日からの大雨による災害

静岡県では、梅雨前線等の影響により記録的な大雨となり、県内各地で土砂災害や河川の氾濫が発生した。また、停電や断水などライフラインへの影響により多くの人々が不自由な生活を強いられる事態となった。

この大雨の影響によって、中・西部地域を中心に土砂災害や河川の氾濫が発生し、死者２名、負傷者１人の人的被害と全壊６棟、半壊９棟、一部損壊 16 棟、床上浸水 160 棟、床下浸水 431 棟の住家被害が生じた。

静岡県支部は、６月２日から第一次救護体制で対応にあたり、情報収集を行ったほか、富士市、静岡市、浜松市の被災者に対し、各地区を通じて災害救援品を配付した。

さらに、静岡県義援金募集・配分委員会の設置に伴い、義援金を募集した。

（ア）災害救援品の配付

地区分区名	毛布(枚)	緊急セット(個)	タオルセット(個)	下着セット(個)		タオルケット
				男性	女性	
富士市	0	18	44	0	0	44
静岡市清水区	2	5	9	1	0	0
浜松市西区	2	1	2	1	1	0
浜松市天竜区	0	3	9	4	2	0
計	4	27	64	6	3	44

（イ）義援金の受付状況（義援金名：令和５年台風第２号災害静岡県義援金）

受付期間	令和５年６月９日から令和５年９月８日
受付方法	銀行振込　全国の赤十字施設及び日赤担当窓口
義援金額	160 件　9,422,512 円

このほかの国内義援金受付状況は、10 ページに掲載のとおり。

▲災害救援品の積み込み

イ 令和６年能登半島地震災害

令和６年１月１日、石川県能登地方を震源とした地震は、マグニチュード 7.6、最大震度７を記録し、建物の倒壊、ライフラインの途絶など多くの被害をもたらした。

この地震の影響によって、死者 241 人、負傷者 1,299 人の人的被害と全壊 8,789 棟、半壊 18,813 棟、一部損壊 83,154 棟、床上浸水６棟、床下浸水 19 棟の住家被害が生じた。

静岡県支部は、１月１日から第一次救護体制で対応にあたり、１月７日には救護班を派遣するなど、３月 31 日現在、石川県（輪島市、珠洲市、能登町、七尾市、志賀町、金沢市の６市町）に支部・県内赤十字病院から延べ 484 人を派遣した。

また、令和６年１月４日から義援金を募集した。

（ア）災害救援品の搬送

日赤石川県支部の要請を受けて、志賀町役場に毛布 750 枚、安眠セット 225 個を搬送した。

（イ）救護班等の派遣状況

a 救護班（DMAT 含む）、延べ 11 班 330 人を派遣

b 日赤災害医療コーディネートチーム、延べ３班 55 人を派遣

c こころのケア要員、延べ 55 人を派遣

d 支部支援要員等、延べ 42 人を派遣

▲救護活動ブリーフィング

▲避難所での診察

（ウ）義援金の受付状況（義援金名：令和６年能登半島地震災害義援金）

受付期間	令和６年１月４日から
受付方法	銀行振込　全国の赤十字施設及び日赤担当窓口
義援金額	件　163,554,113 円（令和６年３月 31 日現在）

（２）救護体制の整備

ア 救護員の登録

大規模災害などが発生した場合に、救護活動を迅速かつ適切に実施するため「静岡県支部救護員登録並びに常備救護班等編成要領」に基づき救護員（災害対策本部要員、救護班要員、血液供給要員）を登録している。

イ 常備救護班の編成

「日本赤十字社救護規則」及び「静岡県支部救護員登録並びに常備救護班等編成要領」に基づき、５つの赤十字病院に常備救護班 11 班 104 人を編成し、災害発生時の救護活動に備えている。

なお、日本赤十字社全体では、常備救護班を 487 班（令和５年３月 31 日現在）編成している。

＜常備救護班＞

施設名	救護班数（班）	救護班要員（人）						
		医師	看護師長	看護師	助産師	薬剤師	主事	計
静岡赤十字病院	5	5	5	21	1	5	14	51
浜松赤十字病院	3	3	3	6	1	3	6	22
伊豆赤十字病院	1	1	1	2	0	1	2	7
引佐赤十字病院	1	1	1	4	0	1	2	9
裾野赤十字病院	1	2	2	3	0	2	6	15
計	11	12	12	36	2	12	30	104

ウ 血液供給要員の配置

「静岡県支部救護員登録並びに常備救護班等編成要領」に基づき、災害などが発生した場合に備えて血液センターに血液供給要員を配置している。

＜血液供給要員＞

施設名	血液供給要員（人）
静岡県赤十字血液センター（静岡市）	3
〃　　沼津事業所	5
〃　　浜松事業所	3
計	11

エ 赤十字防災ボランティアの登録

災害などが発生した場合に活動する赤十字防災ボランティアは、被災地の復旧・復興に欠くことのできない存在となっている。

赤十字奉仕団員や個人ボランティアなどが 123 人登録しており、そのうちリーダーが 16 人、地区リーダーが 68 人となっている。

（3）災害救護訓練及び研修の実施

新型コロナウイルスの影響で中止していた「静岡県支部・県内赤十字病院合同災害救護訓練」を支部・静岡赤十字病院共催で、実働にて実施したほか、愛知県に参集して行われた「日本赤十字社第３ブロック支部（東海・北陸・長野の８県支部）合同災害救護訓練」等に参加した。

また、災害救護活動の基礎的な知識・技術を習得することを目的に「救護員災害救護基礎研修」等を感染対策に十分に留意して実施した。

ア 災害救護訓練

訓練名	開催日	主催	会場	参加者数
静岡県総合防災訓練 （本部運営訓練）	8月29日	静岡県	静岡県庁	静岡県支部 2 静岡赤十字病院 5
静岡県・浜松市・ 湖西市総合防災訓練	9月3日	静岡県・浜松 市・湖西市	浜松赤十字病院 他	静岡県支部 2 浜松赤十字病院 97
日本赤十字社静岡県 支部・県内赤十字 病院合同災害救護 訓練	9月30日	静岡県支部、 静岡赤十字 病院	静岡県支部、 静岡赤十字病院	静岡県支部 6 静岡赤十字病院 658 浜松赤十字病院 6 伊豆赤十字病院 6 引佐赤十字病院 9 裾野赤十字病院 9
日本赤十字社 第３ブロック支部 合同災害救護訓練	11月 17日 ～18日	日本赤十字社 第３ブロック 支部	日本赤十字社愛知医療 センター名古屋第二病院 日本赤十字豊田看護大学	静岡県支部 5 浜松赤十字病院 10

▲病院前救護所での診察

【静岡県・浜松市・湖西市総合防災訓練】

▲災害対策本部の運営支援を行う職員

【日本赤十字社第３ブロック支部合同災害救護訓練】

イ 災害救護研修

研修名	開催日	主催	会場	参加者数
救護員基礎研修	6月16日	静岡県支部	静岡県支部	管内職員 13
	6月23日			管内職員 14
日赤災害医療 コーディネート研修会	7月8日 ～9日	本社	本社	浜松赤十字病院 3
救護員 dERU 展開研修	7月21日	静岡県支部	静岡県支部	管内職員 29
災害派遣チーム （静岡 DMAT） 隊員養成研修	8月23日 ～26日	厚生労働省	兵庫県災害医療 センター	浜松赤十字病院 1
こころのケア 指導者養成研修会	10月11日 ～12日	本社	本社	静岡県支部 1

※管内職員とは、静岡県支部、県内赤十字病院及び血液センターの職員。

▲発電機の説明を受ける職員

【救護員基礎研修】

▲担架搬送の説明を受ける職員

【救護員基礎研修】

（4）災害救援品の備蓄と交付

ア 災害救援品の備蓄

火災、風水害、地震などに備えて災害救援品を備蓄している。本年度は、大雨による災害に有益なタオルセットの追加整備を行った。

＜災害救援品払出・補充状況＞　　令和６年３月 31 日現在

		前年度末	払出（内訳：受払）				補充	本年度末
			交付	戻入	破損等	計		
毛布(枚)		7,531	914	111	12	815	0	6,716
緊急セット(個)		3,082	105	168	110	47	0	3,035
タオルセット(個)		10,232	242	140	49	151	6,000	16,081
下着セット(個)	男性	2,599	88	0	24	112	0	2,487
	女性	2,575	72	13	7	66	0	2,509
使い捨て下着セット(個)	男性	999	0	0	0	0	0	999
	女性	999	0	0	0	0	0	999
タオルケット(枚)		2,290	50	0	0	50	0	2,240
安眠セット(個)		1,230	225	0	12	237	0	993
プライバシーテント（張）		60	0	0	0	0	0	60

＜災害救援品保管場所別備蓄状況＞　　令和６年３月 31 日現在

		計	支部倉庫（追手町）	支部倉庫（国吉田）	伊豆病院倉庫	血液Ｃ沼津倉庫	浜松病院倉庫	引佐病院倉庫	地区分区分置
毛布(枚)		6,716	278	970	690	1,540	1,600	599	1,039
緊急セット(個)		3,035	103	732	228	588	750	60	574
タオルセット(個)		16,081	2,366	2,970	1,800	2,380	3,600	600	2,365
下着セット(個)	男性	2,487	400	0	240	520	540	0	787
	女性	2,509	361	0	269	520	540	0	819
使い捨て下着セット(個)	男性	999	399	0	100	200	300	0	0
	女性	999	399	0	100	200	300	0	0
タオルケット(枚)		2,240	110	1,260	0	400	400	0	70
安眠セット(個)		993	0	125	0	420	348	100	0
プライバシーテント（張）		60	3	47	0	10	0	0	0

▲タオルセット

イ 災害救援品及び災害死亡者弔慰金の交付

県内で発生した火災、風水害などによる被災者に対し地区分区を通じて、災害救援品や災害死亡者弔慰金を交付した。

＜本年度の災害救援品及び災害死亡者弔慰金交付状況＞

地区分区名	被　災		災害救援品					災害死亡者弔慰金(円)
	世帯	人数	毛布	緊急ｾｯﾄ	ﾀｵﾙｾｯﾄ	下着ｾｯﾄ	ﾀｵﾙｹｯﾄ	
下田市	1	2	0	1	2	2	0	0
伊豆の国市	13	25	29	13	27	25	0	0
三島市	2	4	4	1	4	4	0	0
沼津市	2	2	0	0	0	0	0	20,000
裾野市	4	5	3	2	2	2	0	20,000
御殿場市	2	5	0	1	3	4	0	10,000
富士宮市	2	3	2	1	2	2	0	10,000
富士市	24	69	18	26	66	6	50	40,000
静岡市清水区	9	20	19	10	21	13	0	30,000
静岡市葵・駿河区	7	14	11	6	13	12	0	0
焼津市	4	11	3	2	8	6	0	0
藤枝市	2	7	7	2	7	7	0	0
牧之原市	1	3	4	1	2	2	0	10,000
御前崎市	1	3	6	1	3	3	0	0
掛川市	4	15	11	4	14	12	0	0
菊川市	2	4	3	2	3	3	0	20,000
袋井市	2	3	2	1	2	2	0	10,000
磐田市	6	8	2	3	3	3	0	40,000
浜松市中央区中	4	7	3	3	5	2	0	0
浜松市中央区東	2	2	2	2	2	2	0	0
浜松市中央区西	6	15	10	4	10	8	0	20,000
浜松市浜名区浜北	2	4	4	2	4	4	0	0
浜松市浜名区北	1	5	10	4	10	10	0	0
浜松市天竜区	12	26	8	11	26	23	0	0
湖西市	1	2	0	0	0	0	0	10,000
清水町	1	1	1	1	1	1	0	0
吉田町	1	2	2	1	2	2	0	0
計	118	267	164	105	242	160	50	240,000

（5）救護装備の整備

静岡県支部、病院、血液センター、地区分区に救護用車両、倉庫、機材を整備している。

本年度は、災害救護活動の充実を図るため、病院で使用する仮設救護所用装備（エアーテント、発電機、投光器）を更新したほか、地区分区に救護用倉庫４棟を整備した。

＜救護用装備一覧＞　　令和６年３月31日現在

品名			支部	病院	血液センター	地区分区	計	本年度の整備、更新数
救護用車両			9	21	—	66	96	支部　更新１台
救護用倉庫			2	3	1	118	124	地区分区　新設４棟
機材	dERU 一式		1	—	—	—	1	
	医療セット		2	10	—	—	12	
	携帯型医療セット		0	5	—	—	5	
	放射線防護服セット		7	77	—	—	84	
	テント		11	8	—	—	19	
	エアーテント		1	10	—	—	11	病院　更新３張
	担架		10	29	—	—	39	
	折畳寝台		52	299	—	—	351	
	発電機		6	16	1	—	23	病院　更新２台
	投光器		2	13	—	—	15	病院　更新２台
	浄水装置		1	1	—	—	2	
	災害対策本部用ノートパソコン		10	—	—	—	10	
	情報収集用タブレット端末		1	—	—	—	1	
	モバイル Wi-Fi ルーター		1	—	—	—	1	
	救護班用ノートパソコン		—	9	—	—	9	
	簡易トイレ		34	109	—	—	143	
	備蓄食料（単位：食）		546	0	—	—	546	支部　更新 210 食 病院　更新 84 食
	備蓄飲料水（単位：本/500ml）		864	240	—	—	864	支部　更新 360 本 病院　更新 240 本
	支部災害対策本部代替設備*		—	—	1	—	1	
	衛星電話		3	8	6	—	17	
	災害時優先電話（回線数）	固定電話	2	7	3	—	12	
		携帯電話	3	5	6	—	14	
	業務用無線機	基地局	2	2	—	—	4	
		移動局	48	38	25	—	111	
	簡易アンテナセット		2	5	—	—	7	

＊　災害対策本部用資機材、業務用無線アンテナ設備、備蓄食料　他

▲仮設救護所用装備（エアーテント）

▲地区分区救護用倉庫

（６）国内義援金の受付

国内で災害が発生したときに本社や関係機関との協議に基づいて義援金の募集を行っている。静岡県支部が受け付けた義援金は、下表のとおりである。

令和６年３月 31 日現在

義援金名	金額(円)	
	本年度分	累計
令和５年５月能登地方地震災害義援金	202,621	同左
令和５年台風第２号等大雨災害義援金（静岡県）	9,422,512	同左
令和５年台風第２号等大雨災害義援金（全国）	73,183	同左
令和５年６月 30 日からの大雨災害義援金	614,700	同左
令和５年７月７日からの大雨災害義援金	223,759	同左
令和５年台風第６号災害義援金	65,998	同左
令和５年台風第 13 号災害義援金	240,997	同左
令和６年能登半島地震災害義援金	163,554,113	同左
計	174,397,883	同左

２　赤十字看護師養成事業

日本赤十字社の看護師は、保健医療をはじめとして災害救護や国際救援など多岐にわたり活動する必要がある。

静岡県支部では、これらの業務に対応できる看護に関する幅広い能力を持った赤十字看護師を養成するため、愛知県豊田市にある日本赤十字豊田看護大学の学生を対象とした奨学金制度を設けている。

本年度は 26 人の奨学生が在学しており、うち４年生（第 17 期生）５人が県内赤十字病院に入職する予定である（静岡１人、浜松２人、伊豆１人、裾野１人）。

また、県内の赤十字病院に対して、本社及び看護協会等が実施する看護師研修への参加費用や看護師確保のための募集広告費用を助成した。

＜本年度の日本赤十字豊田看護大学奨学生＞

１年	２年	３年	４年	計
６人	５人	10 人	５人	26 人

▲日本赤十字豊田看護大学での演習

３　赤十字講習普及活動

健康で安全な生活を送るための知識と技術を身につけることを目的とした４つの赤十字講習（「赤十字救急法」「赤十字水上安全法」「赤十字健康生活支援」「赤十字幼児安全法」）等を普及するため、多くのボランティア指導員と各地区分区の協力を得ながら県内各地で講習を開催した。

なお、新型コロナウイルスの５類感染症移行に伴い、参加者の体調確認、マスクの着用義務、実技前後の手指消毒などの感染対策を徐々に緩和し、コロナ禍以前に近い形での講習実施となった。

（１）赤十字救急法講習

赤十字救急法講習は「病気やけが、災害から自分自身を守るとともに、傷病者を正しく救助し、医師または救急隊などに引き継ぐまでのＢＬＳ＊と応急手当を学ぶ講習」である。

各地区分区の協力を得て、年間を通して、 県民、赤十字奉仕団、自主防災組織などを対象に講習を開催し、ボランティア指導員及び職員指導員を派遣して普及した。

＊ＢＬＳ（Basic Life Support：一次救命処置）
心肺蘇生（胸骨圧迫と人工呼吸）やＡＥＤ（Automated External Defibrillator：自動体外式除細動器）を用いた電気ショックなど、心臓や呼吸が停止した傷病者を救命するために行う緊急処置

＜本年度の赤十字救急法講習実施状況＞

講習区分	計画回数	実施回数	受講実人数	開催地区分区実数	指導員延人数
基　礎　講　習	70	63	1,213	12 市	185
救急員養成講習	40	36	737	9 市	239
短　期　講　習	200	186	5,423	19 市　3町	392
BLS 入門講座	50	40	2,159	9 市　3町	100
計	360	325	9,532	（20 市　4 町）	916

▲搬送の実技（救急員養成講習）

▲三角巾を使った包帯の実技（短期講習）

（2）赤十字水上安全法講習

赤十字水上安全法講習は「水を活用して健康の増進を図り、また水の事故から生命を守るために、泳ぎの基本や溺れた人を正しく救助する方法などの知識と技術を学ぶ講習」である。

小中学生を対象に「着衣泳」「水に入らないレスキュー」を実施し、落水時の対応、プールや河川等における自己保全、ペットボトルなど身近なものを使った救助の方法を普及した。

また、夏のレジャーシーズンでの事故防止につながるよう、保護者と小学生が一緒に参加する「おやこで着衣泳」では、ライフジャケットの有用性、海や河川の危険な場所などを伝えた。

なお、本年度は、水上安全法指導員Ⅰ養成講習を開催し、新たに８人の指導員が誕生した。

＜本年度の赤十字水上安全法講習実施状況＞

講習区分	計画回数	実施回数	受講実人数	開催地区分区実数	指導員延人数
指導員Ⅰ養成講習	1	1	9	1 市	21
救助員Ⅰ養成講習	7	5	66	3 市	138
短　期　講　習	15	25	664	10 市	64
着　衣　泳	71	75	1,982	20 市　3町	332
水に入らないレスキュー		9	401	4 市　1 町	38
計	94	115	3,122	（22 市　1 町）	593

▲溺者の救助（救助員Ⅰ養成講習）

▲着衣での浮き方（おやこで着衣泳）

（3）赤十字健康生活支援講習

赤十字健康生活支援講習は「自身が高齢期を迎える前からの健康管理、高齢者の自立に向けた介護のほか、高齢者への理解、地域における高齢者支援などについて学ぶ講習」である。

地域包括ケアシステムに貢献すべく、各地域での講習開催や地域赤十字奉仕団の研修の中で、リラクゼーションなど高齢者の支援のしかたを普及した。

＜本年度の赤十字健康生活支援講習実施状況＞

講習区分	計画回数	実施回数	受講実人数	開催地区分区実数	指導員延人数
支援員養成講習	11	7	31	３市	37
短　期　講　習	40	21	479	10市　2町	28
災害時高齢者生活支援講習	20	7	89	４市	9
計	71	35	599	（12市　2町）	74

▲車椅子からの移乗（支援員養成講習）

▲認知症の予防（短期講習）

（4）赤十字幼児安全法講習

赤十字幼児安全法講習は「子どものいのちを守り社会全体で大切に育てるために、子どもに起こりやすい事故の予防と手当の方法、家庭内での看病や災害時における支援など、生活の中で役立つ知識と技術を学ぶ講習」である。

保育に携わる者、子育てを支援する者などを中心に普及に努めたほか、国の認定する子育て支援員研修事業の一課程としての講習や、災害時に特に配慮が必要な乳幼児とその保護者への対応を学ぶ「災害時乳幼児生活支援講習」を実施した。

＜本年度の赤十字幼児安全法講習実施状況＞

講習区分	計画回数	実施回数	受講実人数	開催地区分区実数	指導員延人数
支援員養成講習	12	6	55	３市	39
短　期　講　習	55	50	931	９市　2町	93
災害時乳幼児生活支援講習		11	199	６市　1町	20
計	67	67	1,185	（９市　2町）	152

▲乳児の気道異物除去（支援員養成講習）

▲身近なものを使った応用包帯（短期講習）

（5）赤十字減災セミナー

赤十字減災セミナーは、大規模災害が発生した時にその被害をできるだけ小さくする取り組みをテーマに、赤十字の持つ応急手当や避難所での過ごし方のノウハウを活用して自助、共助に役立てることを目的としている。

避難所などでの集団生活で役立つ感染対策や、毛布ガウンの実技、エコノミークラス症候群の予防など、実技に重点を置いた内容で実施した。

▲毛布ガウンの実技

＜本年度の赤十字減災セミナー実施状況＞

対象区分	計画回数	実施回数	受講実人数	開催地区分区実数	指導員延人数
青少年赤十字加盟校	24	35	1,746	13市　1町	85
加盟校以外の小中高校	15	13	426	5市	28
そ の 他 ・ 一 般	45	28	711	14市　1町	53
計	84	76	2,883	（20市　2町）	166

（6）赤十字救急法競技会

日頃から培った救急法の知識と技術を披露することで、その技術の向上と日常生活における安全意識を高めること、参加者相互の交流とボランティアの連携強化を目的として、１１回目となる赤十字救急法競技会をグランシップで開催した。

感染対策が緩和され、講習でも接触を伴う実技が再開したため、傷病者を救うための実技に重点を置いた内容で競技を実施した。

▲三角巾リレー競技

▲応急救命手当競技

◆開催日　令和５年 10 月 21 日（土）12:00～15:30
◆会　場　グランシップ（静岡市駿河区東静岡 2-3-1）
◆参加者　合計　328 人
※選手 147 人（49 チーム）、観覧・応援者 70 人、来賓 17 人、

スタッフ 94 人（ボランティア 67 人、実行委員６人、支部 21 人）

※競技別参加チーム数＊

ア 三角巾リレー 49（17） イ 救命応急手当 30（17） ウ 心肺蘇生 30（17）

＊競技別参加チーム数の（ ）内は、高校生以下チームの再掲数

◆競技結果（上位入賞）

○総合成績

	優勝	準優勝	第３位
一般の部	浜松医療学院 救護部 B （専門学校浜松医療学院）	浜松医療学院 柔整科 （専門学校浜松医療学院）	さくやちゃん B （富士宮防災ボランティアの会）
高校生以下の部	三島南高校 JRC 部 B （県立三島南高等学校）	三島南高校 JRC 部 A （県立三島南高等学校）	三島南高校 JRC 部 D （県立三島南高等学校）

○種目別成績

	種目	優勝	準優勝	第３位
一般の部	三角巾リレー	浜松医療学院 救護部 B （専門学校浜松医療学院）	浜松医療学院 柔整科 （専門学校浜松医療学院）	富士宮市赤十字奉仕団チーム A （富士宮市赤十字奉仕団）
	救命応急手当	浜松医療学院 柔整科 （専門学校浜松医療学院）	御殿場市赤十字奉仕団 C （御殿場市赤十字奉仕団）	浜松医療学院 救護部 B （専門学校浜松医療学院）
	心肺蘇生	浜松医療学院 救護部 B （専門学校浜松医療学院）	浜松医療学院 柔整科 （専門学校浜松医療学院）	さくやちゃん B （富士宮防災ボランティアの会）
高校生以下の部	三角巾リレー	三島南高校 JRC 部 A （県立三島南高等学校）	三島南高校 JRC 部 B （県立三島南高等学校）	メロンパン （常葉大学附属常葉高等学校）
	救命応急手当	三島南高校 JRC 部 A （県立三島南高等学校）	掛東 １年 （県立掛川東高等学校）	三島南高校 JRC 部 B （県立三島南高等学校）
	心肺蘇生	掛東 １年 （県立掛川東高等学校）	コード・パープル （県立藤枝東高等学校）	フォルトゥーナ （県立藤枝東高等学校）

○有功会会長賞 富士市立高校 JRC １（富士市立高等学校）

◆親睦プログラム

赤十字○×クイズ

▲赤十字○×クイズ

4　赤十字奉仕団活動

赤十字奉仕団は、赤十字の理念である人道のもと、人道的諸活動を実践しようとする人々によって結成されたボランティア組織である。

地域ごとに結成された「地域赤十字奉仕団」、青年や学生の若い世代が中心の「青年赤十字奉仕団」、専門技術を活かして特定の奉仕活動を行う人々で組織された「特殊赤十字奉仕団」が、それぞれの持ち味を活かした奉仕活動を展開している。

静岡県支部は、奉仕団の育成強化を図るため活動に必要な経費を交付するなど、各団の運営を積極的に支援した。（以下、掲載の役員氏名・団員数については令和６年３月 31 日現在）

（１）地域赤十字奉仕団ボランティア・リーダーシップ研修会の開催

地域赤十字奉仕団のリーダーとして必要な知識・技術の習得と奉仕活動の充実及び向上を図ることを目的として、新任委員長、将来のリーダーや中核的役割を担う奉仕団員を対象に同内容の研修会を実施した。

開催月日	会場	参加者数
７月７日（金）	コンベンション沼津（沼津市）	33
７月 13 日（木）	掛川グランドホテル（掛川市）	35

（２）地域赤十字奉仕団活動活性化事業

社会福祉や地域に根ざした課題に取り組む地域赤十字奉仕団の活動を奨励するため「静岡県地域赤十字奉仕団活動活性化事業実施要綱」に基づき事業への助成を行った。

助成を受けた奉仕団は、積極的に事業を実施した。

＜地域赤十字奉仕団活動活性化事業の実施状況＞

奉仕団名	実施期間	事業名	助成額	活動内容
熱海市	令和５年度	炊き出し・健康体操事業	30,730 円	・地域の方と一緒に炊き出しと健康体操を実施
伊豆市	令和５年度	①子どもの食物アレルギー対応ベスト制作 ②地域を担う「自助・共助」あなたも地域の一戦力 ③「笑顔を咲かせよう」市内福祉施設環境整“美”	229,062 円	・災害避難時にアレルギー有無・内容が伝達可能なベスト制作 ・JRC 加盟校や自治会で炊き出し訓練 ・赤十字病院等での植栽活動

奉仕団名	実施期間	事業名	助成額	活動内容
三島市	令和５年度	手作り防災ずきん配布事業	240,000 円	・防災ずきんを手作りし、市内の高齢者に配布
藤枝市 岡部	令和５年度	地域の人たちとみんなで炊き出し	40,659 円	・防災訓練時に地域の方や JRC 加盟校メンバーと炊き出し
掛川市	令和５年度	災害時の対応を学び、いざというときに地域を守ろう！	52,018 円	・炊き出し訓練、応急手当の勉強 ・トリアージの勉強
磐田市	令和５年度	地域のつながりを深め、防災力を高めよう！	88,378 円	・地域の方と一緒に炊き出し応急手当の勉強会の実施 ・子育て支援センター支援
浜松市 三ヶ日	令和５年度	わくわく広場	146,116 円	・デイサービス等利用者を対象に行事を開催
浜松市 浜北	令和５年度	①JRC 加盟校北浜北小との交流事業と炊き出しの普及活動 ②高齢者の介護予防活動 ③献血推進の協力	265,636 円	・JRC 加盟校での花壇づくり ・学校のキャラクター手作り ・ふるさと学級やグランドゴルフでの炊き出し ・献血処遇品を手作り
浜松市 佐久間	令和５年度	①買い物困難者への食事支援 ②障がい者作業所の手伝い ②炊き出し訓練 ③安否確認用黄旗作り	129,629 円	・買い物困難者への食事提供 ・障がい者作業所で利用者と協働して除草 ・防災訓練での炊き出し訓練 ・中学生と一緒に災害時安否確認用の黄旗を制作

（３）地域赤十字奉仕団基礎研修会の実施

赤十字奉仕団員としての知識と技術の基礎を身につけるための研修会である。包装食袋を使用した炊き出し等の研修項目を各奉仕団が選択し、令和３年度から令和５年度の３ヵ年で全ての奉仕団が基礎研修を行った。

本年度は、令和３年度に新型コロナウイルスの影響を受けて中止した３団を含め 16 団で開催した。

＜基礎研修会の実施状況＞

開催日	奉仕団名	参加者(人)	会場
10月2日	森町	21	森町保健福祉センター
10月4日	川根本町	17	川根本町町文化会館
10月24日	焼津市焼津	15	焼津市総合福祉会館
10月25日	伊豆市	36	伊豆市生きいきプラザ
10月26日	松崎町	13	松崎町農村環境改善センター
10月27日	下田市	13	下田市中央公民館
11月4日	菊川市	25	菊川市総合保健福祉センター
11月20日	小山町	19	小山町健康福祉会館
11月29日	浜松市天竜	17	浜松市天竜区船明公会堂
12月13日	裾野市	41	裾野市須山地区研修センター
1月10日	浜松市春野	14	春野協働センター
1月15日	熱海市	17	熱海市保健センター
1月16日	富士宮市	19	富士宮市総合福祉会館
1月20日	静岡市清水区	15	清水浜田生涯学習交流館
1月23日	牧之原市	27	総合健康福祉センターさざんか
1月31日	伊豆の国市	27	韮山福祉・保健センター
計（16団）		336	

（4）災害時炊き出し体制の強化

災害時などに使用する炊き出し器材を、以下の地域赤十字奉仕団に整備した。

各地域の状況に応じて従来の800サイズ（釜の直径約82ｃｍ）と軽量で取り扱いが簡便な600サイズ（同約65ｃｍ）を選択できることとし、体制を整えた。

ア 炊き出し器材の整備

沼津市	800サイズ	1セット
伊豆市	600サイズ	1セット
御殿場市	600サイズ	1セット
藤枝市藤枝	600サイズ	1セット
浜松市春野	600サイズ	1セット

▲炊き出し器材

イ 炊き出しリーダー養成講習会

炊き出し器材の取り扱いや、包装食袋を使った炊き出しの指導方法に加え、被災者との接し方について学ぶ炊き出しリーダー養成講習会を２回開催した。

開催日	会場	参加者数
３月５日（火）・６日（水）	静岡県支部	25

（５）奉仕団の組織と活動

ア 赤十字奉仕団静岡県支部委員会

赤十字奉仕団静岡県支部委員会は、地域赤十字奉仕団委員会、青年赤十字奉仕団及び各特殊赤十字奉仕団の委員長、副委員長等で構成されており、静岡県支部管内の各赤十字奉仕団の運営に関し情報交換を行うとともに、活動の推進に向けた協議及び連絡調整を行っている。

◆赤十字奉仕団静岡県支部委員会役員

委 員 長　小木　絹代　（静岡県地域赤十字奉仕団委員会委員長）
副委員長　加藤　君子　（静岡県地域赤十字奉仕団委員会副委員長）
〃　　松永　　博　（静岡県無線赤十字奉仕団委員長）
〃　　菅沼　博明　（静岡県赤十字水上安全奉仕団委員長）

イ 地域赤十字奉仕団

（ア） 地域赤十字奉仕団委員会

地域赤十字奉仕団委員会は、各地域赤十字奉仕団の委員長で構成されており、静岡県支部管内の地域赤十字奉仕団の運営に関し情報交換を行うとともに、活動の推進に向けた協議及び連絡調整を行っている。

◆地域赤十字奉仕団委員会役員　（　）内は所属赤十字奉仕団

委 員 長　小木　絹代　（浜松市浜北）
副委員長　加藤　君子　（浜松市天竜）
〃　　泉明寺　葉子（函南町）
〃　　八木　公代　（牧之原市）
常任委員　角田　裕子　（伊豆の国市）
〃　　渡邉　靖子　（長泉町）
〃　　菊川　厚代　（藤枝市藤枝）
〃　　大須賀　直子（藤枝市岡部）
〃　　平賀　むつみ（浜松市佐久間）
〃　　乗原　光子　（袋井市）

＜委員会等の実施状況＞

開催日	活動内容	実施方法/会場	出席者/人数
4月24日	静岡県地域赤十字奉仕団委員会・役員会	参集/静岡県支部	35
4月24日	地域赤十字奉仕団活動活性化委員会	参集/静岡県支部	10
5月25日	赤十字奉仕団静岡県支部委員会	参集/静岡県支部	21
6月1日～2日	赤十字奉仕団中央委員会	参集/本社	県委員長
9月6日～7日	第3ブロック赤十字奉仕団委員長並びに担当者会議	参集/岐阜県支部	県副委員長
9月20日	地域赤十字奉仕団活性化委員会	参集/静岡県支部	10
10月11日	静岡県地域赤十字奉仕団委員会	参集/静岡県支部	36

（イ）各地区分区の赤十字奉仕団　［23 市８町に計 40 団　団員　4,513 人］

地域赤十字奉仕団は、地区分区を活動範囲として地域に根ざした奉仕活動を実践するために結成されている。

本年度は、新型コロナウイルスの５類感染症移行に伴い、各市町において活発な奉仕活動が展開された。

ウ 静岡県青年赤十字奉仕団　［団員　18 人］

青年赤十字奉仕団は、将来の赤十字を担う青年や学生がボランティア活動を通して赤十字思想を理解し、奉仕の心を育成することを目的としている。

主に青少年赤十字活動を経験した青年や学生で構成されており、イベントへの協力や青少年赤十字活動への支援、他団体との連携を図っている。

本年度は、参集して定例会を開催するとともに、SNS を活用した活動紹介や団員募集等の広報活動、全国の青年奉仕団との情報交換に取り組み、組織の充実強化に努めた。

◆青年赤十字奉仕団役員

委 員 長　　田中　優丞
副委員長　　中島　正崇

▲救急法競技会に参加

＜本年度の主な活動内容＞

開催日	活動内容	実施方法/会場	参加者数
５月13日	青年赤十字奉仕団第１回全国協議会	Web	1
６月10日～11日	第３ブロック青年赤十字奉仕団代表者及び支部担当者会議	福井県支部	2
７月８日	岐阜県×静岡県　Web 交流会	Web	2
２月23日	青年赤十字奉仕団第２回全国協議会	Web	1
３月１日～５日	赤十字７原則に関するセミナー	本社	1

エ 特殊赤十字奉仕団

（ア）静岡県無線赤十字奉仕団 ［団員　154 人］

静岡県無線赤十字奉仕団は、県内在住のアマチュア無線従事者で組織されている。

静岡県支部社屋に統制局、浜松赤十字病院、伊豆赤十字病院、裾野赤十字病院、下田市に副統制局を設けて、日本赤十字社の災害救護業務を円滑に遂行できるよう、無線通信技術を活かした活動を展開している。

団員相互の通信によって定期的な電波伝播状況調査を毎月 2 回行っているほか、本年度は各都道府県の奉仕団が行う無線通信訓練に計 15 回参加した。

▲無線通信訓練

◆静岡県無線赤十字奉仕団役員

委 員 長　　松永　博

副委員長　　森下　剛嗣　　古田　多津彦　　山本　忠男

（イ）静岡県赤十字安全奉仕団 ［団員　288 人］

静岡県赤十字安全奉仕団は、赤十字講習指導員や赤十字救急法救急員等で組織されている。

大道芸ワールドカップ in 静岡での救護活動や、赤十字救急法競技会の運営協力などの活動のほか、赤十字講習で使用する講習器材の整備や、受付等運営の協力を行った。

▲講習器材の整備

◆静岡県赤十字安全奉仕団役員

委 員 長　　大滝　峰雄

副委員長　　藤本　孝雄　　細見　誠　　飯田　恵司

（ウ）静岡県赤十字水上安全奉仕団　［団員　73 人］

静岡県赤十字水上安全奉仕団は、赤十字水上安全法指導員や赤十字水上安全法救助員で組織されている。

本年度も、水の事故から命を守る赤十字水上安全法講習を指導したほか、県内の水泳競技大会や、海、河川での監視活動を行った。

▲ビーチフェスタでの監視活動

◆静岡県赤十字水上安全奉仕団役員

委 員 長　　菅沼　博明

副委員長　　平山　和也　　杉山　るみ子　　髙岡　克典

（エ）静岡県点訳赤十字奉仕団　［団員　12 人］

静岡県点訳赤十字奉仕団は、点字講習会を受講した主婦、会社員などで組織されている。

本年度は、日常生活になくてはならないカレンダー、土日・休日当番医表、静岡県支部の広報紙「赤十字しずおか」をはじめ、昨年度に引き続き静岡赤十字病院の広報誌「日赤 News」を点訳し、視覚障がいのある人の生活を支援する活動を行った。

▲点字版「日赤 News」

◆静岡県点訳赤十字奉仕団役員

委 員 長　　佐藤　和子

副委員長　　松永　和子

（オ）静岡県赤十字看護奉仕団　［団員　25 人］

静岡県赤十字看護奉仕団は「VS（ボランティアサービス）たんぽぽ」の愛称で、県内在住の看護師がその知識と技術を活かして主に地域の保健福祉に関する分野で活動している。

本年度は、高齢者や障がいのある人を中心とした行事での臨時救護や大道芸ワールドカップでの救護協力を行った。

▲大道芸ワールドカップでの救護協力

◆静岡県赤十字看護奉仕団役員

委 員 長　　山下　トナエ

副委員長　　河本　万喜世

（カ）静岡県柔道整復師赤十字奉仕団　［団員　330 人］

静岡県柔道整復師赤十字奉仕団は、柔道整復師がその知識と技術を活かしたボランティア活動を通じて、明るく住み良い社会を築き上げていくことを目的として活動している。

本年度は、団員及び地域住民を対象に、救急法を取り入れた研修を実施し、知識と技術の向上に努めた。

▲三角巾を使った手当の確認をする団員

◆静岡県柔道整復師赤十字奉仕団役員

委 員 長　　小澤　喜一

副委員長　　大川　宏和　　松本　洋昭　　安間　台

（キ）静岡県青少年赤十字賛助奉仕団　［団員　70 人］

静岡県青少年赤十字賛助奉仕団は、幼稚園・保育所、小・中学校、高等学校などで青少年赤十字の指導に当たっていた教育経験者で組織されている。

本年度も青少年赤十字の普及発展を支援し、青少年の健全育成に寄与するために、青少年赤十字未加盟校への加盟促進や 100 文字作文コンクールの審査等の支援活動を行った。特に本年度は青少年赤十字文庫事業についての周知活動を積極的に実施し「やさしさと思いやりの心」の育成に尽力した。

▲新規加盟登録式

◆静岡県青少年赤十字賛助奉仕団役員

委 員 長　　池谷　久治

副委員長　　巻口　　薫（東部）　　早川　和幸（中部）

　　尾上　　弘（西部）　　永井　正　（高校部）

（ク）静岡県芸能赤十字奉仕団　［団員　22 人］

静岡県芸能赤十字奉仕団は、大道芸パフォーマンスを行う奉仕者組織として結成された。

本年度は、救急法競技会などでの活動機会はなかった。

▲クラウンパフォーマンスを行う団員

◆静岡県芸能赤十字奉仕団役員

委 員 長　　藤田　秋夫

副委員長　　並木　広和

5　青少年赤十字（Junior　Red　Cross）活動

青少年赤十字は、児童や生徒が「やさしさと思いやりのこころを育むこと」を目的に「気づき・考え・実行する」という態度目標と「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の３つの実践目標を掲げ取り組んでいる。

本年度は、昨年度に実施した青少年赤十字創設 100 周年記念事業を契機とした取組を発展させ、加盟校（園）における青少年赤十字活動が活性化するよう取り組んだ。

（1）加盟校の状況

本年度末の加盟校（園）数は、以下のとおりである。

年度	令和５年度末		令和４年度末	
区分 校種別	加盟校 （園・校）	メンバー数 （人）	加盟校 （園・校）	メンバー数 （人）
幼・保・こども園	24	1,553	25	1,875
小　　学　　校	179	50,306	163	49,777
中　　学　　校	98	28,633	93	26,623
高　等　学　校	101	31,315	99	37,250
特 別 支 援 学 校	7	635	5	261
計	409	112,442	385	115,786

◆本年度の学校訪問数 303 校・新規加盟校（園）数 35 校（園）

（2）青少年赤十字活動の状況

ア　「JRC 文庫」の創設

児童・生徒のやさしさと思いやりの心を育むため、「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」に関連した書籍を図書室に「JRC 文庫」コーナーとして整備した。

◆小学校　　157 校／165 校中
（整備率　95.2%）

◆特別支援学校　　７校／　７校中
（整備率 100.0%）

※令和５年６月末時点の加盟校小学校
特別支援学校が対象

▲加盟小学校の JRC 文庫

イ 青少年赤十字の充実・強化

（ア）高校生メンバー研修会

高校生メンバーの気づき、考え、実行する力を育み、他校との交流を図ること、自校でのよりよい活動を考える機会とすることを目的に高校生メンバー研修会を実施した。

青少年赤十字の意義を再確認するオリエンテーションを行ったうえで活動に取り組み、研修のまとめとして「わたしたちにできること」というテーマで各校が発表した。

◆参加校・参加者数　　11 校　249 人

静岡県立稲取高等学校　静岡県立三島南高等学校　静岡県立沼津商業高等学校
静岡県立吉原高等学校　富士市立高等学校　静岡県立静岡高等学校
静岡県立清流館高等学校　静岡県立藤枝東高等学校　静岡県立島田商業高等学校
静岡県立掛川東高等学校　静岡県立沼津特別支援学校伊豆田方分校

◆開催内容

開催日	内　　容	実施方法
6月 18 日	・JRC オリエンテーション ・ワークショップ「赤十字のマークを知ろう」	Web
9月 10 日	・海岸清掃	さがらサンビーチ 千本浜海岸
10 月 15 日	・家具安全対策ゲーム（KAG） ・災害時シミュレーション	Web
11 月 19 日	・講話「日赤の開発協力～インドネシア防災強化事業～」 ・ドローイングチャレンジ	参集
12 月 1 日 ～25 日	・ＮＨＫ海外たすけあい街頭募金活動	各校において実施
2月4日	・各校の発表「わたしたちにできること」 ・意見交換	Web

▲千本浜海岸で開催した海岸清掃

▲NHK 海外たすけあい街頭募金

（イ）青少年赤十字スタディー・センター（本社主催）

◆開催日　令和６年３月 22 日（金）～26 日（火）

◆参加者　静岡県立島田商業高等学校　２人

◆内　容　全国から 70 人以上のメンバーが参加し、集団生活やフィールドワークを通して、リーダーとして求められる意欲、知識、技術を養う研修

ウ 指導者の養成・強化

赤十字と青少年赤十字活動への理解を深め、各加盟校で「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」に関する実践活動に取り組むことができるよう指導者育成のための研修会を開催した。

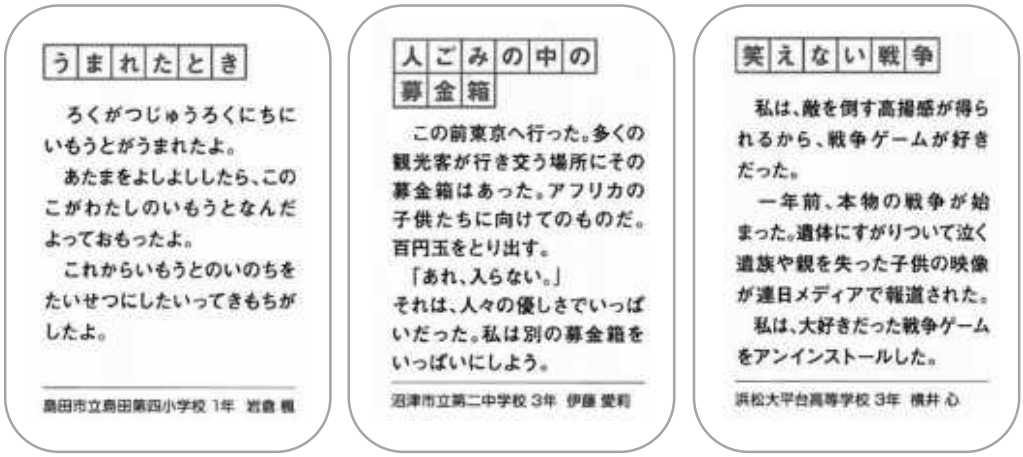
開催日	研修会	内　　容	参加者数
５月２６日	指導担当者研修会	講話「JRC 活動と SDGs」 防災セミナー「災害エスノグラフィー」	８

エ 青少年赤十字活動の普及・広報

（ア）青少年赤十字 100 文字作文コンクール

園児・児童・生徒が日々の生活や学校（園）での実践活動、体験したことを振り返り、自分の思いや考えを表現する。やさしさと思いやりの心を育むことを目的にコンクールを開催した。

募集部門	応募数
短作文部門（100 文字作文）	1,628 点
作文部門	118 点
ハートラちゃんのお絵かき部門	69 点
計	1,815 点



うまれたとき

ろくがつじゅうろくにちにいもうとがうまれたよ。
あたまをよしよししたら、このこがわたしのいもうとなんだよっておもったよ。
これからいもうとのいのちをたいせつにしたいってきもちがしたよ。

島田市立島田第四小学校 1年 岩倉 穂

人ごみの中の募金箱

この前東京へ行った。多くの観光客が行き交う場所にその募金箱はあった。アフリカの子供たちに向けてのものだ。百円玉をとり出す。
「あれ、入らない。」
それは、人々の優しさでいっぱいだった。私は別の募金箱をいっぱいにしよう。

沼津市立第二中学校 3年 伊藤 愛莉

笑えない戦争

私は、敵を倒す高揚感が得られるから、戦争ゲームが好きだった。
一年前、本物の戦争が始まった。遺体にすがりついて泣く遺族や親を失った子供の映像が連日メディアで報道された。
私は、大好きだった戦争ゲームをアンインストールした。

浜松大平台高等学校 3年 横井 心

▲短作文部門　入賞作品

（イ）青少年赤十字防災教育

賛助奉仕団、地域奉仕団、防災ボランティア、地区分区と連携し、炊き出し体験、防災講話を実施した。

◆実施校・参加者数

静岡市立清水浜田小学校　23 人
島田市立島田第五小学校　60 人
焼津市立焼津中学校　362 人
牧之原市立榛原中学校　167 人

▲奉仕団の指導を受けて包装食を作成

オ 加盟校（園）活動支援事業

加盟校（園）における実践目標「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」に関する活動を実施するための経費を助成した。

実践活動奨励金（各校 一律１万円）　227 校（園）
探求活動助成金（各校 上限５万円）　12 校

カ 海外救援活動への協力

海外の紛争や災害、疾病などに苦しむ人々を支援する青少年赤十字海外支援事業（ネパール・バヌアツの支援）に役立てる「青少年赤十字活動資金」の募金活動を加盟校に促した。

受付金額	実施校（園）
52,128 円	若葉幼稚園、若竹幼稚園、若竹こどもの森、 焼津市立豊田小学校、焼津市立大井川東小学校、 島田市立相賀小学校、牧之原市立細江小学校、 三島市立中里西中学校、牧之原市立榛原中学校

（3）青少年赤十字指導者協議会

青少年赤十字の普及と加盟校同士の連携を目的として、加盟校の校長や指導者などで構成する「静岡県青少年赤十字指導者協議会」が組織されている。

若手指導者の確保、青少年赤十字への理解・加盟促進についての協議などが行われた。

開催日	事　業	内　容	参加者数
４月１９日	役員会	評議員会、役員関連事業の確認	14
４月１９日	評議員会	事業計画、事業報告審議	28
６月2日	第３ブロック青少年赤十字指導者協議会長及び担当者研究会	協議事項、照会事項	5
６月30日	青少年赤十字全国指導者協議会役員会、総会・研修会	役員改選、活動報告、グループディスカッション等	1
2月16日	役員会	事業中間報告、次年度の事業計画協議	12

６　国際活動

世界各地では、今もなお民族の対立や政治経済の混乱などに起因する様々な紛争、風水害、干ばつ、地震などの自然災害、新型コロナウイルスに代表される感染症が多発し、その犠牲者や被害者は依然として増加している傾向にある。

紛争や災害時の人道的活動は、赤十字活動の基本的使命であり、日本赤十字社は国際赤十字の一員として、各国の赤十字社・赤新月社、赤十字国際委員会、国際赤十字・赤新月社連盟と連携して「国際救援」と「開発協力」の活動を展開している。

静岡県支部では、第３ブロック支部と共同して国際活動に参加するとともに、NHK 海外たすけあいなど海外救援金を募集した。

（１）第３ブロック支部共同事業

日本赤十字社は、様々な紛争や自然災害などによって被害を受けた外国の人々のために救援活動に従事する国際救援要員を派遣し、被害国の赤十字社の組織運営強化に結びつく援助を行っている。

静岡県支部は、第３ブロック支部共同事業として、次の事業に参加した。

＜第３ブロック支部共同事業＞

事業名（対象地域）	事業費総額 （内、静岡県支部の支出額）	事業内容
東アフリカ地域保健強化事業 （ブルンジ、タンザニア、ウガンダ）	6,000 千円 （1,020 千円）	地域住民の保健・防災に関する知識の向上を目的として、フォーカスグループディスカッションやラジオ放送等を通じた啓発活動を実施
レバノンプライマリーヘルス・ スケールアップ事業（レバノン）	8,000 千円 （1,360 千円）	地域住民への一次医療サービス向上を目的として、プライマリーヘルス・センターの環境整備、医療スタッフやボランティアへの研修を実施
アジア・大洋州給水・衛生災害対応キット整備事業（アジア・大洋州）	6,000 千円 （1,020 千円）	アジア・大洋州地域の災害多発国への給水・衛生災害対応キットの整備と資機材の見直し、給水・衛生に関する研修や地域の人々への衛生教育を実施

▲コロナ感染症対策やワクチンについて説明をする
ボランティア（ウガンダ）

▲浄水テストの使い方を確認する研修参加者
（マレーシア）

（2）ＮＨＫ海外たすけあい等海外救援金の募集

ア ＮＨＫ海外たすけあい

日本赤十字社は昭和 58 年から NHK と共催し、アジア、アフリカ地域を中心とする開発途上国の災害救援、難民支援、保健衛生の向上などを目的とした NHK 海外たすけあいを実施している。

本年度は、NHK の放送や SNS などを通じて呼びかけたほか、新型コロナウイルス感染対策を行ったうえで街頭募金を実施した。

▲NHK 静岡放送局での受付

	第 41 回（令和５年）		第 40 回（令和４年）		第 39 回（令和３年）	
本県の概要	件数	金額（円）	件数	金額（円）	件数	金額（円）
	1,214	15,379,246	1,211	12,789,806	1,357	16,986,911
全体実績額	８億 6,384 万円		７億 8,708 万円		７億 2,088 万円	
全体目標額	８億 5,000 万円		８億 5,000 万円		８億 5,000 万円	

イ 海外救援金

海外で発生した武力紛争、自然災害や病気などにより困難な状況にある人々を支援するために海外救援金を募集した。

ウクライナ人道危機や令和５年２月のトルコ・シリア地震に対して、多くの救援金が寄せられた。

令和６年３月 31 日現在

救援金名	受付件数	受付金額（円）
中東人道危機救援金	34	147,232
バングラデシュ南部避難民救援金	35	1,137,568
アフガニスタン人道危機救援金	33	81,617
ウクライナ人道危機救援金	1,254	35,187,066
2023 年トルコ・シリア地震救援金	493	13,921,425
2023 年アメリカ・ハワイ火災救援金	28	73,113
2023 年モロッコ地震救援金	16	312,886
2023 年リビア洪水救援金	10	19,330
2023 年アフガニスタン地震救援金	13	6,421
イスラエル・ガザ人道危機救援金	54	480,819

（３）インドネシア防災強化事業への職員派遣

日本赤十字社は、開発協力として、インドネシアの地震や津波等の災害が危惧される地域において、いのちを守るための防災知識を普及し、村落や学校における災害への対応力の強化を図る「インドネシア防災強化事業」を実施している。

静岡県支部では、本年度、本事業に参画し、職員を同国へ派遣した。

現地では、赤十字救急法の実技や家具の安全対策等を同国防災ボランティアへ伝達したほか、インドネシア赤十字社職員や青少年赤十字加盟校の教諭・生徒と活動紹介や意見交換を通じ、両国赤十字社の知見を共有した。

▲防災ボランティアへの救急法の伝達

派遣期間	派遣地域	職員数
９月29日（金） ～10月７日（土）	インドネシア　ケブメン県	1

（４）国際救援・開発協力要員の確保

日本赤十字社は、海外の災害救援や保健衛生向上のために高い語学力と国際活動への参加意思を持ち、長期にわたり国際活動に従事できる人材（国際救援・開発協力要員）を派遣している。

静岡県支部で確保している要員は、３人である。

（５）安否調査の実施

安否調査は、赤十字の国際活動のひとつでありジュネーブ条約などに基づいて武力紛争、自然災害、その他の事情により行方がわからなくなった家族等の調査を各国赤十字・赤新月社間で行うものである。

本年度は、静岡県支部への調査依頼はなかった。

7　社業振興事業

日本赤十字社の活動は、会員等の支援者が拠出する会費と一般からの寄付金によって運営されている。

本年度も、自治会や町内会等を通じた地域に密着した方法で活動資金募集を展開したほか、法人会員の増強などに努め、481 百万円余と目標額に近い実績となった。

（1）赤十字運動

５月１日が日本赤十字社創立記念日、５月８日が赤十字の創始者アンリー・デュナン生誕を記念した世界赤十字デーであることから５月を赤十字運動月間としている。

より多くの県民に赤十字運動へ参加していただくため、地区分区関係者をはじめ、協賛委員会、奉仕団、有功会などの協力を得て県下一斉に会員等支援者の増強に努めた。

また、赤十字活動資金にご協力くださった方々に表彰基準によって、有功章等を贈呈した。

＜本年度の有功章及び感謝状受章者数（社資功労）＞

受章区分 / 地区分区名	金色有功章		銀色有功章		社長感謝状	
	個人	法人	個人	法人	個人	法人
三島市	1	1	0	0	0	2
沼津市	0	1	1	0	0	0
裾野市	0	0	0	0	0	0
富士宮市	1	0	0	1	0	0
富士市	0	1	1	0	0	0
静岡市清水	0	0	0	0	0	1
静岡市葵・駿河	0	0	0	1	2	1
焼津市	0	1	0	0	0	0
藤枝市	0	0	2	1	0	1
島田市	0	0	1	0	0	0
御前崎市	0	3	1	6	0	0
浜松市中央区中	0	0	0	0	1	0
浜松市中央区南	0	0	0	0	1	0
浜松市浜名区浜北	0	1	1	0	0	0
支部扱い	4	1	8	1	5	1
支部扱い（施設）	0	0	0	1	0	2
計	6	9	15	11	9	8

（2）法人会員の増強

活動資金の増強を図るためには、法人の協力を求めることが不可欠であるため、主に県下の法人を対象に赤十字の使命を伝え、活動資金の使途を明確にしたダイレクトメールを２回送付した。この結果、約 25 百万円の協力を得ることができた。

また、商工会議所を通じた法人へのアプローチとして、静岡商工会議所会員あてに、活動資金募集のチラシを送付した。

（3）活動資金募集の拡充（遺贈、相続財産による寄付の推進）

ア 遺贈や相続財産の寄付を案内するパンフレットを、相続相談などの日頃の業務に使っていただくよう東海税理士会を通じて県内の同会所属会員に配付した。また、県弁護士会等を訪問し、会員への配付及び周知を依頼した。さらに、県内公証役場にも送付し活用を依頼した。

▲有功会総会での遺贈・相続財産寄付セミナー

イ 有功会総会で本社職員を講師に招き「相続における遺言の必要性と遺贈寄付について」の講演を行った。有功会会員全員にパンフレットを送付し、寄付勧奨に努めた。

ウ 静岡新聞への広告掲載や WEB サイトで PR を行った。

エ 赤十字救急法等講習受講者への認定証の交付に際し、リーフレットや振込用紙を配付して活動資金への協力を働きかけた。

（4）赤十字チャリティーボックスの設置

県内の地域赤十字奉仕団と JA 静岡中央会等の協力により、JA 関係機関、県内の商店、スーパーマーケット、ホテル、公民館など約 1,000 ヵ所に赤十字チャリティーボックスを設置しており、本年度は約 135 万円の収納実績を得た。

（5）令和５年度活動資金（社資収入）収納額

本年度の活動資金収納額は、**481,865,594 円で、**対予算 97.3%となった。

地区分区名	予算相応額（円）	活動資金収納額（円）	達成率（%）
下田市	2,962,000	3,143,629	106.1
伊東市	7,793,000	7,277,200	93.4
熱海市	3,877,000	2,903,784	74.9
伊豆市	4,858,000	4,763,000	98.0
伊豆の国市	5,884,000	6,459,500	109.8
三島市	12,987,000	14,045,570	108.2
沼津市	23,938,000	24,154,210	100.9
裾野市	6,186,000	7,310,058	118.2
御殿場市	9,665,000	8,630,409	89.3

地区分区名	予算相応額（円）	活動資金収納額（円）	達成率（%）
富士宮市	16,365,000	17,956,409	109.7
富士市	30,032,000	29,703,990	98.9
静岡市	74,700,000	70,739,680	94.7
（静岡市清水）	（29,179,000）	（31,299,133）	107.3
（静岡市葵･駿河）	（45,521,000）	（39,440,547）	86.6
焼津市	20,484,000	22,625,577	110.5
藤枝市	16,686,000	17,950,704	107.6
島田市	11,583,000	11,776,001	101.7
牧之原市	6,548,000	5,764,397	88.0
御前崎市	5,175,000	4,876,000	94.2
掛川市	14,882,000	16,558,574	111.3
菊川市	5,291,000	6,290,500	118.9
袋井市	10,054,000	12,251,000	121.9
磐田市	19,342,000	18,624,559	96.3
浜松市	96,335,000	91,502,410	95.0
（浜松市中央区中）	－	（22,109,088）	－
（浜松市中央区東）	－	（14,678,148）	－
（浜松市中央区西）	－	（12,626,801）	－
（浜松市中央区南）	－	（11,175,037）	－
（浜松市浜名区浜北）	－	（15,841,861）	－
（浜松市浜名区北）	－	（10,087,187）	－
（浜松市天竜区）	－	（4,984,288）	－
湖西市	7,327,000	8,505,492	116.1
東伊豆町	1,529,000	1,406,500	92.0
河津町	1,014,000	1,039,000	102.5
南伊豆町	1,103,000	1,135,500	102.9
松崎町	1,425,000	1,188,400	83.4
西伊豆町	1,397,000	1,398,100	100.1
函南町	4,175,000	3,768,666	90.3
清水町	4,735,000	4,945,000	104.4
長泉町	5,947,000	7,023,000	118.1
小山町	3,156,000	3,188,000	101.0
吉田町	3,693,000	3,885,800	105.2
川根本町	1,197,000	1,225,500	102.4
森町	2,675,000	2,996,489	112.0
地区分区計	**445,000,000**	447,012,608	**100.5**
支部扱い	50,000,000	34,852,986	69.7
合　　計	**495,000,000**	**481,865,594**	**97.3**

（6）静岡県支部会員戦略の策定

活動資金を安定的に確保するため、令和６年１月に現状分析に基づく『日本赤十字社静岡県支部の会員戦略』を策定した。今後、全社的な見地から静岡県支部の努力目標額として本社から示された 565,000 千円のできる限り早期の達成を目指す。

（7）令和５年静岡県赤十字大会の開催

９月６日に静岡県コンベンションアーツセンターグランシップにおいて、関係者約 200 人が参加し、赤十字事業に貢献された方々の顕彰と更なる赤十字活動の推進を期して令和５年静岡県赤十字大会を開催した。

第一部の式典では、出野 静岡県副知事から赤十字への活動資金の協力やボランティア活動に貢献された方々に対し有功章、社長感謝状、支部長表彰状・感謝状を贈呈した。また、地域の高齢者支援等の活動を実施している浜松市佐久間赤十字奉仕団の委員長、商業の知識を生かした社会貢献活動を実施している静岡県立島田商業高等学校ボランティア委員会の生徒による活動発表が行われた。

▲参会した受章者の皆さま

（8）全国赤十字大会への参加

令和５年全国赤十字大会は、５月 18 日に日本赤十字社名誉総裁皇后陛下、名誉副総裁各妃殿下ご臨席のもと、東京の明治神宮会館で開催された。今大会は、新型コロナウイルスの５類感染症移行に伴い令和元年度以来の通常開催となった。

全国から約 1,600 人が参会し、静岡県支部からは 36 人が参会した。

大会では、名誉総裁皇后陛下より赤十字活動への功績があった個人や団体の代表ら 13 人に有功章が授与され終盤では、日本赤十字社アンバサダーである上白石萌音さんがサプライズ登場し参会者に対して日頃の支援に対する感謝を述べられた。

（9）日本赤十字社静岡県支部協賛委員会

自治会、町内会あるいは奉仕団の方々には、活動資金の募集等様々な協力をいただいている。

市町の自治会、町内会の役員で構成されている静岡県支部協賛委員会が４月に開催され、令和５年度の運営方針が決定された。

◆日本赤十字社静岡県支部協賛委員会役員

会　長　　廣野　篤男

副会長　　中村　直保　　板倉　福男　　宮﨑　寿夫

開催日	内　容
４月 20 日	〈令和５年度運営方針〉赤十字事業の周知・会員等支援者増強の推進
８月	役員改選（文書審議）

（１０）日本赤十字社静岡県有功会

静岡県有功会は、赤十字事業の支援等を目的に有功章受章者で組織されている。赤十字の人道・博愛精神の普及や青少年赤十字の支援などの活動を続けており、令和６年３月末現在の会員数は 383 人となっている。

本年度は、支部事業の支援として、赤十字救急法競技会の有功会長賞、青少年赤十字 100 文字作文コンクールの参加賞を提供した。

10 月に九州（大分・熊本・佐賀県）への会員研修を実施し、ジェーンズ邸、田原坂西南戦争資料館、佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館等を視察した。

▲静岡市葵区で開催された有功会総会

◆日本赤十字社静岡県有功会役員

会　長　　山本　良一　（三島市支会会長）

副会長　　池谷　滋雄　（富士宮市支会会長）　早馬　義光　（御前崎市支会会長）

　　山口郊治郎　（裾野市支会会長）

（１１）赤十字思想の普及（広報活動）

赤十字の活動を推進するためには、県民の赤十字に対する理解と支援が不可欠であり、事業内容や活動資金の使途をわかりやすく説明することが求められているため「活動報告とお礼」に留意した広報を展開している。

本年度は、「令和６年能登半島地震にかかる静岡県支部の対応」などを、広報紙や Web ページ、X（旧 Twitter）等において発信した。

ア 活動資金募集チラシ

災害時だけでなく、いつどこで起こるか分からない災害に備える活動を取り上げ、赤十字の活動を持続可能にするための支援を訴求したチラシ約 76 万部を作製し、自治会・町内会を通じて各世帯へ回覧または配布した。

▲活動資金募集チラシ

イ 静岡県支部広報紙「赤十字しずおか」

赤十字活動を会員等支援者の皆様にわかりやすく伝えることを目的に、年２回（８月、１月）発行し、自治会や図書館、行政窓口等に配布（発行部数計約 10 万部）した。

テーマ　◆赤十字幼児安全法講習の紹介（８月）

　　◆静岡県赤十字大会開催（12 月）

▲支部広報紙
「赤十字しずおか」

ウ 赤十字運動用ステッカー

商業組合静岡県タクシー協会及び静岡県個人タクシー協会の協力を得て、ステッカー約 4,400 枚を県内のタクシーに貼付した。

▲赤十字運動用ステッカー

エ 赤十字 NEWS

本社発行の「赤十字ＮＥＷＳ」に毎月記事を投稿するとともに、関係者に配付した。（約 18,000 部）

オ Web サイト

活動資金募集への理解や協力を促すため、災害救護活動、各種講習紹介等を行った。本年度は、81,422 回のページビュー数があった。

▲日本赤十字社静岡県支部 Web サイトトップページ

カ SNS　X（旧 Twitter）

若年層への情報伝達の充実を図り、支部事業への理解（共感）度・認知度を向上させることを目的に、令和５年１月に静岡県支部のＸ（旧 Twitter）を開設した。

令和６年能登半島地震における静岡県支部の対応をはじめ、ボランティア・JRC の活動や赤十字講習にかかる内容などを随時発信し、フォロワー数が 27 人から 167 人に増えた。

▲日本赤十字社静岡県支部Ｘ（旧 Twitter）

キ 各種イベントへの参加

県民への赤十字事業のさらなる理解促進を目的に他団体主催のイベントに積極的に参加し、体験コーナー等をとおして広報活動を実施した。

◆浜松志都呂防災フェス！

日時　10月14日（土）10：00～15：00

場所　イオンモール浜松志都呂　北正面駐車場、セントラルコート他

主催　イオンモール浜松志都呂

実施内容　赤十字事業紹介パネル展示、心肺蘇生体験、災害救援品の展示　など

参加団体　浜松市消防局、浜松市危機管理課、浜松西警察署、陸上自衛隊　他

◆「未来へつなぐSDGｓ～ここに住み続けるために今始めたいこと」

日時　11月12日（日）13：00～16：00

場所　静岡ガスエネリアショールーム静岡

主催　静岡ガスグループ

後援　静岡市教育委員会

出展内容　心肺蘇生体験、災害救援品の展示、ＪＲＣ100文字作文コンクール作品（お絵かき部門）展示　など

参加団体　静岡朝日テレビ、静岡市消防局、静岡市上下水道局　他

◆冬フェスタ2023～大人も子どももみんなで極める「家庭内防災」～

日時　12月9日（土）13：00～16：00

場所　浜松市防災学習センター

主催　浜松市防災学習センター

後援　静岡新聞社・静岡放送、中日新聞東海本社　他

出展内容　ワークショップ（「おうちの危険」、きずの手当て）

参加団体　（株）ミサワホーム静岡、ＮＰＯ法人積志かがやきカフェ　他

▲ハートラちゃんとの記念撮影
【浜松志都呂防災フェス！】

▲お絵かき部門の展示
【未来へつなぐSDG】

８　評議員会

静岡県支部では、日本赤十字社定款第 71 条に基づき、事業報告（収支決算を含む）及び事業計画（収支予算を含む）を評議員会に諮りながら各事業を推進している。

（１）前期評議員会

６月８日、静岡県支部において開催。次の議案が原案どおり承認された。

第１号議案：令和４年度事業報告及び歳入歳出決算について

また、次の事項について報告を行った。

トルコ・シリア地震への対応について

（２）後期評議員会

２月８日、静岡県支部において開催。次の議案が原案どおり承認された。

第１号議案：令和６年度事業計画について

第２号議案：令和６年度歳入歳出予算について

また、次の事項について報告を行った。

・令和６年能登半島地震にかかる静岡県支部の対応について

・インドネシア防災強化事業について

・会員戦略の策定について

▲議案説明の様子

９　一般会計決算概要

（１）歳　入

（単位：円）

科目	予算現額			決算額	予算現額に比し増減
	当初予算額	補正予算額	計		
社資収入	**495,000,000**	**4,361,000**	**499,361,000**	**486,226,594**	**△13,134,406**
一般社資収入	466,000,000	4,361,000	470,361,000	460,950,610	△9,410,390
法人社資収入	29,000,000	0	29,000,000	25,275,984	△3,724,016
補助金及び交付金収入	**3,814,000**	**0**	**3,814,000**	**4,218,193**	**404,193**
本社交付金収入	3,814,000	0	3,814,000	4,218,193	404,193
災害義援金預り金収入	**0**	**9,423,000**	**9,423,000**	**9,422,512**	**△488**
繰入金収入	**3,000,000**	**4,361,000**	**7,361,000**	**4,361,000**	**△3,000,000**
資金繰入金収入	3,000,000	4,361,000	7,361,000	4,361,000	△3,000,000
資産収入	**0**	**0**	**0**	**231,612**	**231,612**
雑収入	**6,186,000**	**0**	**6,186,000**	**7,041,777**	**855,777**
利子収入	2,000	0	2,000	1,092	△908
負担金収入	5,144,000	0	5,144,000	3,535,862	△1,608,138
雑収入	1,040,000	0	1,040,000	3,504,823	2,464,823
前年度繰越金	**62,000,000**	**0**	**62,000,000**	**63,228,461**	**1,228,461**
歳入合計	**570,000,000**	**18,145,000**	**588,145,000**	**574,730,149**	**△13,414,851**

（2）歳　出

（単位：円）

科目	予算現額				決算額	不用額
	当初予算額	補正予算額	流用増減額	計		
災害救護事業費	**50,620,000**	**9,423,000**	**0**	**60,043,000**	**58,361,141**	**1,681,859**
災害救護指導事業費	16,260,000	0	5,633,000	21,893,000	21,889,638	3,362
災害救護装備費	19,400,000	0	△4,907,000	14,493,000	14,490,641	2,359
非常災害救援物資整備費	1,150,000	0	△726,000	424,000	530	423,470
災害義援金送付金	0	9,423,000	0	9,423,000	9,422,512	488
救護看護師指導養成費	13,810,000	0	0	13,810,000	12,557,820	1,252,180
社会活動費	**118,020,000**	**0**	**0**	**118,020,000**	**93,710,178**	**24,309,822**
救急法等普及費	59,750,000	0	0	59,750,000	42,006,488	17,743,512
奉仕団活動費	14,520,000	0	0	14,520,000	12,767,799	1,752,201
青少年赤十字活動費	35,050,000	0	0	35,050,000	31,124,089	3,925,911
医療事業費	8,670,000	0	0	8,670,000	7,795,302	874,698
血液事業費	30,000	0	0	30,000	16,500	13,500
国際活動費	**3,650,000**	**4,361,000**	**0**	**8,011,000**	**7,765,522**	**245,478**
指定事業地方振興費	**20,000,000**	**4,361,000**	**0**	**24,361,000**	**24,358,528**	**2,472**
地区分区交付金支出	**75,700,000**	**0**	**0**	**75,700,000**	**74,195,372**	**1,504,628**
社業振興費	**60,390,000**	**0**	**0**	**60,390,000**	**48,582,813**	**11,807,187**
社業振興費	25,260,000	0	0	25,260,000	20,033,802	5,226,198
広報活動費	35,130,000	0	0	35,130,000	28,549,011	6,580,989
基盤整備交付金・補助金支出	**8,600,000**	**0**	**0**	**8,600,000**	**7,120,000**	**1,480,000**
積立金支出	**51,570,000**	**0**	**0**	**51,570,000**	**33,795,470**	**17,774,530**
資金積立金支出	40,000,000	0	0	40,000,000	23,000,000	17,000,000
退職給与資金特別会計積立金支出	11,570,000	0	0	11,570,000	10,795,470	774,530
総務管理費	**82,300,000**	**0**	**0**	**82,300,000**	**77,798,671**	**4,501,329**
評議員会等諸費	520,000	0	0	520,000	301,183	218,817
総務管理費	81,060,000	0	0	81,060,000	76,882,428	4,177,572
監査費	720,000	0	0	720,000	615,060	104,940
資産取得及び資産管理費	**25,100,000**	**0**	**0**	**25,100,000**	**17,578,148**	**7,521,852**
本社送納金支出	**70,050,000**	**0**	**0**	**70,050,000**	**68,080,209**	**1,969,791**
予備費	**4,000,000**	**0**	**0**	**4,000,000**	**0**	**4,000,000**
歳出合計	**570,000,000**	**18,145,000**	**0**	**588,145,000**	**511,346,052**	**76,798,948**

歳　入　合　計　574,730,149 円
歳　出　合　計　511,346,052 円
歳入歳出差引残額　63,384,097 円　（翌年度繰越額）

（3）資金増減明細表

（単位：円）

資金別		前年度末現在額	令和５年度 増 利子収入（A）	令和５年度 減 元本繰出額（B）	令和５年度 差引額（A）－（B）	令和５年度積立額	令和５年度末現在額
災害等資金		1,299,152,418	1,346,317	0	1,346,317	0	1,300,498,735
国際救護活動資金	国際救護活動資金(社資収入)	42,492,495	424	0	424	0	42,492,919
国際救護活動資金	支部国際活動基金(個人住民税控除適用)	11,992,493	119	0	119	0	11,992,612
国際救護活動資金	支部国際活動基金(個人住民税控除適用海外救援金)	0	0	4,361,000	△4,361,000	4,361,000	0
施設整備準備資金		1,097,901,941	3,041,286	0	3,041,286	23,000,000	1,123,943,227
特別退職金積立留保金		0	0	0	0	0	0
事業準備積立金		0	0	0	0	0	0
合　　計		2,451,539,347	4,388,146	4,361,000	27,146	27,361,000	2,478,927,493

Ⅱ　医療事業・医療施設特別会計決算概要

県下５つの赤十字病院において、平時の一般診療に加えて災害時には救護活動にあたるなど赤十字の使命を果たすべく活動している。それぞれの病院が特色を生かして救急医療や地域の医療ニーズに取り組むほか、高齢社会へ対応する療養病床や在宅での療養、介護を支援するための訪問看護ステーションを設けるなど、安定的な医療の提供と福祉の増進に努めている。

１　静岡赤十字病院

（１）診療状況の概要

病床数		職員数				入院患者数			外来患者数		
許可病床数	実働病床数	医師	看護師	その他	計	延数	１日平均	１日平均前年比	延数	１日平均	１日平均前年比
床	床	人	人	人	人	人	人	%	人	人	%
465	465	144.7	478.0	350.7	973.4	144,569	395.0	103.9	193,762	800.7	99.9

（２）訪問看護ステーションの状況

名称	利用者数	訪問看護延回数	従事者数	サービス内容
しずおか日赤 訪問看護ステーション	人 198	回 6,960	人 7.9	訪問看護、訪問リハビリ

（３）運営状況

本年度は、静岡赤十字病院第５次中期経営計画の２年目であった。新型コロナウイルス感染症の位置づけが変更され、それに伴い病棟を中心に医療提供体制の見直しを行った。

経営基盤の強化を図り、当該計画の「運営の柱」を軸に質の高い医療サービスを提供できるよう、持続的な成長に向けて、以下の事項を推進した。

ア 救急医療の充実

救命救急センター取扱実患者数は 10,462 人（令和４年度 10,647 人）であり、うち入院が 4,009 人（令和４年度 3,754 人）、であった。救急車実搬入台数は 5,219 台（令和４年度 5,203 台）と増加し、静岡市消防管内の救急車搬入のうち、当院に搬入された割合は、約 １２％と市内においては４番目の水準であり、地域の救急医療の要としての機能を果たした。

イ 診療機能の整備（医師確保）

当院の役割としての地域に求められる急性期医療機能を維持するため、医師確保に向けて積極的な大学医局訪問等を継続した。なお、近年、診療体制が強化された眼科、呼吸器内科、消化器内科は、順調に患者数が増加している。また、当院の強みである整形外科は、

手術件数が県内でトップクラスであることから、県内の広域から多くの患者が来院しており、信頼を得ている。

ウ 看護体制の整備

昨年度に看護師が大幅に減少し、手薄になった人員で診療報酬の施設基準を維持するため、病棟間での配置調整を行い、より効率的な人員配置とした。また、就業環境の改善に努めたことで離職者が前年度と比して、大幅に減少した。業務の効率化を図り、労務管理を適切に行うことで、時間外労働時間も減少している。なお、令和６年１月に発生した能登半島地震においては、被災地病院の支援のために看護師を２人派遣した。

エ 地域医療連携の推進

静岡市静岡医師会との病診連携システム・開放型病床運営協議会について懇親会を含め開催し、開業医と顔の見える関係作りを積極的に行った。本年度は紹介率 85.3%、逆紹介率 136.2%となり、地域の医療機関の多大な信頼を得ている。地域の外来機能の明確化・連携の推進に資するため、新たに創設された「紹介受診重点医療機関＊」に指定された。
＊医療資源を重点的に活用する外来を地域で基幹的に担う医療機関

オ 災害医療体制の充実

当院は、災害拠点病院に指定されており、大規模災害発生時は、広域から多数の傷病者を受け入れる役割を担っている。本年度は、当院を会場として静岡県支部と合同で災害救護訓練を実施し、多数傷病者の受入れや受援体制の検証を行った。また、救護班５班を編成し、常時災害現場に派遣できる体制をとっているが、本年度は、能登半島地震の発生により、救護班５班 31 人（ＤＭＡＴ含む）、災害医療コーディネーター１班５人、こころのケア１班４人を派遣し、巡回診療や救護所の運営業務に従事し、被災地支援を行った。その他、災害救護訓練に計８回 40 人が参加（上記合同訓練を除く）、ＤＭＡＴ隊員養成を含む研修には計 10 回 37 人が参加し、体制の充実に努めた。

カ 安心・安全な医療提供体制の強化

年２回実施する全職員対象の医療に係る安全管理と感染管理の研修は、多くの職員の参加を得た。医療安全の観点から、インシデントレポートを医師中心に働きかけを行うことで積極的に収集し、分析を行い、必要に応じて迅速かつ適切な対策を講じた。また、中部ブロック赤十字病院医療安全推進会議を幹事病院として開催し、赤十字病院間での情報共有に努めた。

キ 初期臨床研修医教育

新たに全国から医師免許を取得した１４人の初期臨床研修医を迎え、計２７人となった。当院は、初期臨床研修医の教育機関である臨床研修病院に指定されており、医師として基本的な手技や知識を身につけさせるため、指導医を中心に将来の医療を担う医師の育成に努めた。

ク 医療機器等の整備

本年度は、核医学診断用装置（ガンマカメラ装置）の更新を行い、医療機能の維持に努めた。手術の質向上、手術件数の増加に資するため、手術室において使用する半導体レーザー手術システム（泌尿器科）を導入、内視鏡システム（外科等）、関節鏡カメラシステム（整形外科）を更新した。また、患者の療養環境の向上のため、老朽化した２号館の特別個

室の改修工事を行った。

（4）訪問看護ステーションの運営

総合病院の付帯施設という特色を生かして、産科病棟との連携を強化し、助産師が産後うつや新生児を対象とした訪問による母子支援を継続して行った。また、リンパ浮腫セラピストの資格保持者を中心に終末期患者への対応に注力し、他の施設にない特色を生かし、地域の医療ニーズに積極的に応えた。

（5）決算概要

収益的収入および支出

(単位:円)

科　目	予算現額			決算額	令和4年度決算額
	当初予算額	補正予算額	計		
病院収益	16,445,487,000	0	16,445,487,000	16,652,166,884	17,513,015,523
医業収益	15,882,985,000	0	15,882,985,000	15,551,821,219	14,892,072,492
医業外収益	477,499,000	0	477,499,000	1,025,084,491	2,552,186,219
医療社会事業収益	518,000	0	518,000	627,500	512,500
付帯事業収益	83,423,000	0	83,423,000	73,770,680	66,945,970
特別利益	1,062,000	0	1,062,000	862,994	1,298,342

科　目	予算現額				決算額	令和4年度決算額
	当初予算額	補正予算額	流用増減	計		
病院費用	16,375,405,000	80,000,000	0	16,455,405,000	15,898,336,967	15,750,738,249
医業費用	16,040,220,000	0	0	16,040,220,000	15,586,500,130	15,408,082,999
医業外費用	104,296,000	80,000,000	0	184,296,000	179,100,103	110,263,698
医療奉仕費用	109,710,000	0	0	109,710,000	59,602,438	163,906,532
付帯事業費用	82,225,000	0	0	82,225,000	73,259,853	71,790,204
特別損失	8,352,000	0	0	8,352,000	438,968	3,974,827
法人税等	602,000	0	0	602,000	△ 564,525	△ 7,280,011
予備費	30,000,000	0	0	30,000,000	0	0
収支差引額	70,082,000	△ 80,000,000	0	△ 9,918,000	753,829,917	1,762,277,274

資本的収入および支出

(単位:円)

科　目	予算現額				決算額	令和4年度決算額
	当初予算額	補正予算額	前年度繰越事業費充当額	計		
病院収入	991,645,000	0	0	991,645,000	822,875,204	940,491,212
固定負債	0	0	0	0	39,970,720	106,756,976
その他資本収入	991,645,000	0	0	991,645,000	782,904,484	833,734,236

科　目	予算現額				決算額	令和4年度決算額
	当初予算額	補正予算額	前年度事業繰越額	計		
病院費	991,645,000	0	0	991,645,000	822,875,204	940,491,212
固定資産	442,516,000	0	0	442,516,000	348,754,350	467,601,819
借入金等償還	549,129,000	0	0	549,129,000	474,120,854	472,889,393
収支差引額	0	0	0	0	0	0

利益剰余金

(単位:円)

当期未処分利益(損失)A(a+b)	前期繰越利益(損失) a	当期純利益(損失) b	利益積立金B	利益剰余金合計(A+B)
2,169,470,820	1,415,640,903	753,829,917	0	2,169,470,820

２　浜松赤十字病院

（１）診療状況の概要

病床数		職員数				入院患者数			外来患者数		
許　可 病床数	実　働 病床数	医　師	看護師	その他	計	延　数	１日 平均	１日平均 前年比	延　数	１日 平均	１日平均 前年比
床	床	人	人	人	人	人	人	%	人	人	%
312	277	60.0	244.0	163.5	467.5	84,801	231.7	100.5	86,740	357.0	88.2

（２）訪問看護ステーションの状況

名称	利用者数	訪問看護延回数	従事者数	サービス内容
日赤訪問看護ステーション	人 173	回 6,722	人 9.0	訪問看護、訪問リハビリ、居宅介護支援

（３）運営状況

浜松市北部地域の中核病院として地域医療支援病院及び災害拠点病院に指定されており、地域に求められる救急医療体制の充実に積極的に取り組むと共に、地域住民や近隣医師会、行政などの期待に応えるべく、以下の項目を重点的に推進し病院運営を行った。

ア 救急医療及び災害医療の拡充

浜松市内の輪番制救急医療体制における二次救急医療機関の一機関として、救急医療体制や診療機能の充実を図り、年間で 7,300 人余りの救急患者を受け入れた。この中でも当院が立地する旧浜北区、天竜区、東区からの救急患者は全体の約 78%余りを占め、浜松市北東部の市民病院的役割を果たしている。また、地域医療支援病院として、地域の医療機関から 6,600 人余りの検査や入院等を目的とした紹介患者の受け入れを行った。

静岡県の総合防災訓練においては、当院が主会場のひとつとなり、災害拠点病院開設運営、病院前救護所設置運営、大規模災害時救急搬送、広域医療搬送などの訓練を実施した。行政をはじめ医師会、静岡 DMAT など多くの団体が参加し、総勢 300 人を超える大規模な訓練となった。訓練では浜松市との「災害時の医療救護活動に関する協定」に基づく「病院前救護所」を設置して、地域に期待されている「災害時に地域に遍在する医師等を病院前に集約し役割分担すること」、「負傷者が殺到した場合にも迅速な医療救護活動を行うことが可能となること」などについて改めて運営の検証を行った。

この総合防災訓練を通じて、浜松市の期待に応えるべく救護体制の拡充を図った。

イ 医師確保と教育の推進

医師確保のために浜松医科大学、藤田医科大学の各医局を訪問し、人員が不足している診療科を中心とした医師派遣要請を行った。その結果、次年度からの消化器内科４人、整形外科１人、形成外科１人の医師確保へと結び付いた。

基幹型臨床研修病院として、新たに臨床研修医６人を迎え、計 12 人の研修を実施した。

また、研修医の教育以外にも全職員を対象とした医療安全や感染管理に関する研修の強化を図り、安心安全な医療体制に努めた。

ウ 看護師の安定確保と看護の質の向上

看護師の安定確保のために、看護大学や看護専門学校への訪問を行った。また、看護師不足が進む中、ホームページを活用した募集広告や募集サイトの積極的な活用、奨学生の募集、実習生の受け入れ等により看護師確保に努めた。

認定看護師や看護師の特定行為研修などのスキルアップに対する支援や教育研修を充実させ、タスクシェアを推進しながら看護の質向上に取り組んだ。

エ 病院経営に対する生産性の向上

深刻な看護師不足により、年度途中には許可病床 312 床のうち 1 病棟 35 床を休床し、実働病床を 277 床の体制に変更したが、救急医療体制を更に強化しながら積極的な救急患者の受け入れを行った。救急搬送の受入件数を増やすことで、救急搬送件数は、前年度の 3,513 件に対し本年度は 3,790 件へと年間で 277 件増加し、入院患者延数の増加に繋がった。

更なる収入確保対策として、診療所等との連携を一層強化することで、紹介患者数の増加に繋がった。これにより地域医療支援病院としての役割を果たすことが出来た。

新築移転から導入していたコジェネレーション設備による自家発電を中止し、電力会社からの電力供給に切り替えたことにより、経費の削減に繋がった。また、診療材料の共同購入や放射線機器の共同保守等を積極的に利用しながら、医業費用の抑制に努めた。

6 月の日本医療機能評価機構による病院機能評価の受審をとおして、職場環境や業務の改善を行い、生産性と医療の質の向上に努めた。

（4）訪問看護ステーションの運営

地域に根付いた医療を提供するため、ＩＣＴ等を利用して多職種間の連携を深めた。また、自宅で最後まで寄り添いたいという家族の希望に応じるため、地域の医師との連携により在宅看取りを強化した。

（5）施設等整備

診療機能の効率化を図るため、9 年間使用し老朽化していた電子カルテシステム一式を更新した。また、血管造影Ｘ線診断装置、一般撮影装置、ガンマカメラ、透析用水作成装置、シャワーベッド、臓器標本保管用真空包装機、腹臥位用手術架台、オンサイトエネルギーサービス設備（常用発電機、熱源装置）、ＧＨＰ空調設備（医局系統）等を整備した。

（6）決算概要

収益的収入および支出

(単位:円)

科目	予算現額			決算額	令和4年度決算額
	当初予算額	補正予算額	計		
病院収益	7,893,202,000	0	7,893,202,000	7,096,548,315	7,731,299,870
医業収益	7,491,019,000	0	7,491,019,000	6,569,490,552	6,909,257,800
医業外収益	322,001,000	0	322,001,000	451,042,161	750,055,751
医療社会事業収益	0	0	0	683,440	0
付帯事業収益	79,724,000	0	79,724,000	74,626,351	71,422,021
特別利益	458,000	0	458,000	705,811	564,298

科目	予算現額				決算額	令和4年度決算額
	当初予算額	補正予算額	流用増減	計		
病院費用	8,001,383,000	13,000,000	0	8,014,383,000	7,415,801,591	7,564,493,250
医業費用	7,837,609,000	0	0	7,837,609,000	7,247,024,827	7,408,175,878
医業外費用	70,651,000	9,000,000	0	79,651,000	77,036,736	76,071,657
医療社会事業費用	11,821,000	4,000,000	4,966,581	20,787,581	20,787,581	13,160,918
付帯事業費用	64,395,000	0	2,338,714	66,733,714	66,733,714	64,564,220
特別損失	5,577,000	0	0	5,577,000	5,548,717	1,205,716
法人税等	1,330,000	0	0	1,330,000	△ 1,329,984	1,314,861
予備費	10,000,000	0	△ 7,305,295	2,694,705	0	0
収支差引額	△ 108,181,000	△ 13,000,000	0	△ 121,181,000	△ 319,253,276	166,806,620

資本的収入および支出

(単位:円)

科目	予算現額				決算額	令和4年度決算額
	当初予算額	補正予算額	前年度事業費繰越額	計		
病院収入	915,005,000	0	214,500,000	1,129,505,000	1,025,118,462	557,472,539
固定負債	323,136,000	0	40,000,000	363,136,000	384,012,000	43,720,000
その他資本収入	591,869,000	0	174,500,000	766,369,000	641,106,462	513,752,539

科目	予算現額				決算額	令和4年度決算額
	当初予算額	補正予算額	前年度繰越事業費充当額	計		
病院費	915,005,000	0	214,500,000	1,129,505,000	1,025,118,462	557,472,539
固定資産	599,105,000	0	214,500,000	813,605,000	734,082,800	137,714,335
借入金等償還	315,900,000	0	0	315,900,000	291,035,662	419,758,204
収支差引額	0	0	0	0	0	0

利益剰余金

(単位:円)

当期未処分利益(損失)A(a+b)	前期繰越利益(損失) a	当期純利益(損失) b	利益積立金B	利益剰余金合計(A+B)
△ 8,641,919,156	△ 8,322,665,880	△ 319,253,276	0	△ 8,641,919,156

３　伊豆赤十字病院

（１）診療状況の概要

病床数		職員数				入院患者数			外来患者数		
許　可 病床数	実　働 病床数	医　師	看護師	その他	計	延　数	１日 平均	１日平均 前年比	延　数	１日 平均	１日平均 前年比
床 84	床 84	人 7.9	人 58.2	人 75.2	人 141.3	人 19,948	人 54.5	% 99.6	人 40,601	人 167.1	% 96.3

（２）付帯施設の概要

ア 介護医療院の概要

職員数			利用者数			
看護師	その他	計	入所 介護医療院 96 人			居宅介護
			延数	１日平均	１日平均前年比	延数
人 16.6	人 29.6	人 46.2	人 32,459	人 88.7	% 102.0	人 435
サービス内容：入所療養、ケアプラン作成						

イ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の概要

利用者数					
通い（18 人）			泊り（９人）		
延数	１日平均	１日平均前年比	延数	１日平均	１日平均前年比
人 4,150	人 11.3	% 87.6	人 1,434	人 5.9	% 73.8
サービス内容：通い、泊り、訪問介護、訪問看護					

ウ 訪問看護ステーションの概要

名称	利用者数	訪問看護延回数	従事者数	サービス内容
訪問看護ステーション 伊豆日赤	人 1,112	回 4,688	人 7.4	訪問看護、訪問リハビリ

（３）運営状況

当院は、伊豆市の二次救急病院として、内科領域の疾患を中心に医療を行っている。

急性期から慢性期までの入院・外来医療、人工透析を実施するとともに様々な介護サービス（介護医療院・訪問看護ステーション・看護小規模多機能型居宅介護事業所）も提供するケアミックス型医療機関として地域に貢献し、高齢化が進む地域の在宅医療についても積極的に実施している。

ア 外来診療体制の拡充

常勤医師５人（院長含む）のうち２人が年度途中で産・育休となったが、地域の医療ニーズに応えるため、非常勤医師を確保し、外来や日当直の診療体制を維持するとともに、泌尿器科・婦人科の診療日数の増加や新たに令和５年５月から夜間小児診療を開始するなど、外来診療体制の拡充に取り組んだ。

イ 電子カルテの導入

令和５年９月から電子カルテを導入し、診療情報のデジタル化による情報の共有化、管理の即時性等の向上により、医師や医療従事者の負担軽減を図った。なお、電子カルテ導入後もプログラム修正や部署間の運用調整などに取り組み、より円滑かつ適正な運用が行われるよう努めた。

ウ 病床削減及び用途変更

コロナ禍からの入院患者数の回復が鈍く、看護師の確保も困難な状況等から、二次医療圏域において２０２５年必要量に対して過剰となっている急性期（一般）病床を、令和６年２月に 10 床削減した。なお、削減した病床の用途ついては、リハビリテーション室への転用により入院患者の在宅復帰を強化するほか、ナースステーションを補完する室にも転用し看護動線短縮と患者見守りを強化する。

エ 在宅医療連携の推進

在宅医療・訪問診療・訪問看護等の事業を推進するとともに、地域住民への ACP（Advance Care Planning）の普及、啓発のため、「わたしの人生会議」と題する市民向け講演会を開催した。在宅医療を行っている医師や看取り経験のあるご家族が講演し、ゲームを通して参加者たちと終末期医療についてグループワークを行った。

（4）付帯事業施設の運営

ア 介護医療院

医療機能と生活施設としての機能を兼ね備え、長期療養者の受皿として開設した介護医療院は、病院やケアマネ等との連携強化を図ったことで入所者も増え、増収となった。また、病院と連携して感染対策に努め、利用者に安心・安全な生活を提供した。

イ 看護小規模多機能型居宅介護事業所（レクロス小立野）

通い・泊り・訪問介護・訪問看護の複数サービスを提供し、利用者の住み慣れた地域で最期まで自分らしい生活を続けたい気持ちや、介護する家族の思いに応えていく介護サービスの実施に努めた。

ウ 訪問看護ステーション（訪問看護ステーション伊豆日赤）

看護師不足の中でも可能な限り、地域における在宅を希望する患者・家族のニーズに応えた。利用者に寄り添い、その人らしさを大切にした看護・リハビリを実践するために、地域の診療所や介護事業所と連携・協働し在宅医療を支えた。

（5）決算概要

収益的収入および支出

（単位：円）

科　目	予算現額			決算額	令和4年度決算額
	当初予算額	補正予算額	計		
病院収益	2,186,944,000	0	2,186,944,000	2,156,244,402	2,206,730,234
医業収益	1,314,849,000	0	1,314,849,000	1,317,319,388	1,352,142,389
医業外収益	214,300,000	0	214,300,000	213,321,644	231,287,028
医療社会事業収益	2,500,000	0	2,500,000	5,374,836	3,773,168
付帯事業収益	655,233,000	0	655,233,000	620,223,879	619,527,649
特別利益	62,000	0	62,000	4,655	0

科　目	予算現額				決算額	令和4年度決算額
	当初予算額	補正予算額	流用増減	計		
病院費用	2,122,097,000	20,000,000	0	2,142,097,000	2,108,338,406	2,031,812,483
医業費用	1,524,685,000	0	0	1,524,685,000	1,505,741,890	1,453,572,828
医業外費用	8,767,000	0	0	8,767,000	7,834,465	7,220,470
医療奉仕費用	1,390,000	0	2,540,000	3,930,000	3,841,128	1,200,619
付帯事業費用	577,224,000	20,000,000	1,460,000	598,684,000	588,236,371	569,576,447
特別損失	5,590,000	0	0	5,590,000	2,822,398	72,087
法人税等	441,000	0	0	441,000	△ 137,846	170,032
予備費	4,000,000	0	△ 4,000,000	0	0	0
収支差引額	64,847,000	△ 20,000,000	0	44,847,000	47,905,996	174,917,751

資本的収入および支出

（単位：円）

科　目	予算現額				決算額	令和4年度決算額
	当初予算額	補正予算額	前年度繰越資本勘定支出額	計		
病院収入	295,210,000	51,630,000	0	346,840,000	282,644,740	56,604,225
固定負債	92,997,000	37,580,000	0	130,577,000	72,571,211	12,271,000
その他資本収入	202,213,000	14,050,000	0	216,263,000	210,073,529	44,333,225

科　目	予算現額				決算額	令和4年度決算額
	当初予算額	補正予算額	前年度事業繰越額	計		
病院費	295,210,000	51,630,000	0	346,840,000	282,644,740	56,604,225
固定資産	107,612,000	51,630,000	0	159,242,000	95,047,516	19,257,001
借入金等償還	187,598,000	0	0	187,598,000	187,597,224	37,347,224
収支差引額	0	0	0	0	0	0

利益剰余金

（単位：円）

当期未処分利益(損失)A(a+b)	前期繰越利益(損失) a	当期純利益(損失) b	利益積立金B	利益剰余金合計(A+B)
△ 944,236,242	△ 992,142,238	47,905,996	0	△ 944,236,242

４　引佐赤十字病院

（１）診療状況の概要

病床数		職員数				入院患者数			外来患者数		
許　可 病床数	実　働 病床数	医　師	看護師	その他	計	延　数	１日 平均	１日平均 前年比	延　数	１日 平均	１日平均 前年比
床	床	人	人	人	人	人	人	%	人	人	%
99	99	5.3	26.8	42.6	74.7	27,832	76.0	88.4	4,691	19.4	78.9

（２）運営状況

地域に根差した慢性期医療を担う医療療養型病院として、急性期病院での治療を終えた後も引き続き入院加療を必要とする患者や複数の疾患を抱えた慢性期の高齢患者を中心に、病院理念に基づき「心のこもった医療と介護」を提供すべく、以下の事項を推進した。

ア 診療体制

（ア）新型コロナウイルスやインフルエンザウイルス等に対応すべく、令和２年度に開設した発熱外来診療を継続した。本年度は延べ 132 人の患者を受け入れた。

また、臨時のコロナワクチン接種日を設けるなどして、地域の高齢者を中心に延べ 554 人にワクチン接種を行った。

（イ）安心、安全な医療と介護を提供するため、職員研修会の開催や学会・研究会などへ参加を推奨して、知識と技術の向上に努めた。

イ 医療安全

医療安全推進室が中心となって、医療事故発生の原因究明、再発防止策の検討・実施、職員への周知徹底を図り、全職員を対象とした体験型研修会を開催するなどして医療事故の防止に取り組んだ。

ウ 感染対策

感染対策委員会による定期的な院内ラウンドを実施して、職場の環境と感染対策の評価・指導を行い、また、マスク、ガウン、手袋など衛生資材の安定確保に努めるとともに、感染防護服の着脱訓練及び手指消毒訓練を行うなどして職員一丸となって感染対策に取り組んだ。

エ 災害救護活動

令和６年１月１日に発生した能登半島地震へは、浜松赤十字病院と合同で救護班を編成して、１月 31 日から２月４日まで看護師１人を派遣した。

オ 地域包括ケアシステムの推進

「地域住民が住みなれた地域で自分らしい暮らしを最後まで続けることができるよう」地域の急性期病院、診療所、行政機関等との連携を図り、また、自院においても在宅患者支援のための訪問リハビリテーション、居宅介護支援事業所及び通所介護事業所を運営して、地域包括

ケアシステムの構築に努めた。

カ 病院閉院

昭和 21 年の開院以来、引佐地域の急性期医療を、平成 23 年からは医療療養病床に転換して地域の慢性期医療を担ってきた。しかし、近年においては

（ア）経営状況が悪化して今後も大幅な経営状況の回復が見込めず、老朽化した建物等に対する再投資が可能な財政状況ではないこと。

（イ）西部医療圏において慢性期病床数は過剰とされ、将来の医療需要も減少予測されていること。

（ウ）赤十字病院としての災害救護等への対応は、近隣の浜松赤十字病院で対応可能であること。

などから、令和７年３月末をもって閉院することが決定した。

このため、令和６年２月に閉院を公表して患者及び地域住民等への周知を図り、入院患者の円滑な転院等に向けて準備を開始した。

（３）介護事業施設の運営

ア 通所介護事業所

小規模運営の地域密着型サービスへの転換（令和５年２月）により、これまでより利用者一人ひとりに寄り添った手厚いサービスを提供すべく、歩行支援ロボットを導入するなどして個別機能訓練の充実を図った。

イ 居宅介護支援事業所

令和６年３月末の廃止にあたり、利用者の必要なサービスの提供が途切れないよう、近隣の居宅介護支援事業所等と連携して利用者の調整を図った。

（4）決算概要

収益的収入および支出

（単位：円）

科　目	予算現額			決算額	令和4年度決算額
	当初予算額	補正予算額	計		
病院収益	770,200,000	0	770,200,000	657,927,445	750,374,243
医業収益	681,732,000	0	681,732,000	564,069,840	651,767,725
医業外収益	40,874,000	0	40,874,000	48,571,166	52,564,478
医療社会事業収益	47,594,000	0	47,594,000	45,286,439	46,042,040
付帯事業収益	0	0	0	0	0
特別利益	0	0	0	0	0

科　目	予算現額				決算額	令和4年度決算額
	当初予算額	補正予算額	流用増減	計		
病院費用	782,672,000	3,301,000	0	785,973,000	745,829,017	812,316,886
医業費用	731,387,000	0	0	731,387,000	694,932,985	758,375,675
医業外費用	7,746,000	0	0	7,746,000	4,895,954	7,500,195
医療奉仕費用	43,418,000	3,300,000	0	46,718,000	46,120,287	46,393,296
付帯事業費用	0	0	0	0	0	0
特別損失	0	1,000	0	1,000	1	44,074
法人税等	121,000	0	0	121,000	△ 120,210	3,646
予備費	0	0	0	0	0	0
収支差引額	△ 12,472,000	△ 3,301,000	0	△ 15,773,000	△ 87,901,572	△ 61,942,643

資本的収入および支出

（単位：円）

科　目	予算現額				決算額	令和4年度決算額
	当初予算額	補正予算額	前年度事業費繰越額	計		
病院収入	18,468,000	616,000	0	19,084,000	3,304,264	6,352,276
固定負債	2,877,000	616,000	0	3,493,000	616,000	1,888,700
その他資本収入	15,591,000	0	0	15,591,000	2,688,264	4,463,576

科　目	予算現額				決算額	令和4年度決算額
	当初予算額	補正予算額	前年度繰越事業費支出額	計		
病院費	18,468,000	616,000	0	19,084,000	3,304,264	6,352,276
固定資産	15,307,000	616,000	0	15,923,000	616,000	3,417,700
借入金等償還	3,161,000	0	0	3,161,000	2,688,264	2,934,576
収支差引額	0	0	0	0	0	0

利益剰余金

（単位：円）

当期未処分利益(損失)A(a+b)	前期繰越利益(損失) a	当期純利益(損失) b	利益積立金B	利益剰余金合計(A+B)
△ 1,285,496,334	△ 1,197,594,762	△ 87,901,572	0	△ 1,285,496,334

５　裾野赤十字病院

（１）診療状況の概要

病床数		職員数				入院患者数			外来患者数		
許　可 病床数	実　働 病床数	医　師	看護師	その他	計	延　数	１日 平均	１日平均 前年比	延　数	１日 平均	１日平均 前年比
床	床	人	人	人	人	人	人	%	人	人	%
104	104	8.1	50.0	46.5	104.6	29,202	79.8	115.2	24,732	91.9	92.4

（２）訪問看護ステーションの状況

名称	利用者数	訪問看護延回数	従事者数	サービス内容
訪問看護ステーション すその日赤	人 85	回 2,781	人 3	訪問看護

（３）運営状況

当院は、裾野市唯一の二次救急病院であり、第二種感染症指定医療機関である。

令和５年５月８日より新型コロナウイルス感染症が５類へ変更になった事に伴い、当院の診療受入れ体制も大きく変わった。

入院患者数は、職員一丸となって確保に努めた結果、前年度に比べ 15.2%増となり、入院診療収益も前年度比 7.8%増となった。

外来患者数は、診療枠の減少が影響し、前年度に比べ 7.6%減、外来診療収益は前年度比 3.1%減となった。

地域との関わりについては、サービス向上委員会を年２回開催し、裾野市民の代表の方との意見交換を実施した。また、地域防災会議への参加、地域の行事への救護スタッフ派遣、糖尿病料理講習会の実施等、地域を支える病院としての役割を果たせるよう努めた。

ア 入院体制の充実

高齢者を中心とした地域医療のニーズに応えられる体制を図るため、限られた人的医療資源を集中させた。同時に効率的な病床稼働を実現するために、多職種が連携してベッドコントロールを行った。また、在宅医療推進のため訪問診療の回数を増やすと共に、在宅療養支援病院として、更なる体制強化に努めた。

イ 地域医療連携の充実

紹介元である高次医療機関や地域の開業医との、積極的な連携構築に努めた。また、入院の紹介・受け入れ相談・退院支援の推進を図る為に、地域医療連携の充実に努めた。

ウ 災害医療の充実

大規模災害発生時に備え、新たに発熱エリアを設置するなど様々な状況を想定した院内独自の救護訓練を職員 47 人の参加のもと実施した。

また、能登半島地震には伊豆赤十字病院との合同班として２班（医師２人　看護師１人　主事２人）を派遣した。

エ 医療安全体制の充実強化

ＩＣＴ（感染対策チーム）と医療安全管理者等による院内巡視を行い、医療安全管理体制の充実強化を図った。

オ 常勤医師の確保

通常の当直業務の他、輪番制の救急対応等、地域の求める診療体制を維持するためには、安定的な医師の確保が必要である。

昨年度に続き施設長による近隣の医療施設訪問を行う他、医師紹介会社からの情報の収集、病院ホームページに医師募集サイトの掲載を継続しているが、常勤医の増員には至っていない。令和６年３月の常勤医師は６人（内科４人、外科１人、整形外科１人）となった。

カ 看護師等の確保

看護師等の採用については、本社指示により原則退職不補充となっている。令和５年度以降、目標の入院患者数の確保が条件となるが、適正な病院経営に見合った看護職員の確保に向け本社病院支援課と情報を共有し、助言をいただきながら赤十字豊田看護大学の奨学生１人を確保することが出来た。

看護助手については、本社より入院患者数に合せた派遣形態での採用許可が得られ募集を行っているが、夜勤可能なフルタイム勤務可能な職員の確保は依然厳しい状況である。

キ 施設等の整備

設備関係では、外来棟の老朽化に伴い屋上防水改修工事を実施したほか、空調設備の故障による設備更新も行った。

裾野市の補助金により、全自動錠剤分包機や全自動血液凝固測定装置等を整備した。

ク 経営改善

本部管理病院に指定されていることから、業務キャッシュフローの黒字化を目標に本社と継続的な打ち合わせを実施した。

また、院内では病院幹部で構成する経営改善推進本部を中心に経営改善に努めた結果、前年度に比べ医業収支の赤字幅は大幅に減少した。

本年度は新型コロナウイルス感染症包括支援事業等の補助金収益が大幅に減少したが、経常収支は黒字となった。

（4）決算概要

収益的収入および支出

（単位:円）

科　目	予算現額			決算額	令和4年度決算額
	当初予算額	補正予算額	計		
病院収益	1,529,316,000	0	1,529,316,000	1,555,047,247	1,903,356,654
医業収益	1,343,016,000	0	1,343,016,000	1,334,694,712	1,278,751,501
医業外収益	161,628,000	0	161,628,000	196,642,580	603,999,976
医療社会事業収益	2,558,000	0	2,558,000	2,524,500	2,517,000
付帯事業収益	22,114,000	0	22,114,000	21,185,455	18,081,937
特別利益	0	0	0	0	6,240

科　目	予算現額				決算額	令和4年度決算額
	当初予算額	補正予算額	流用増減	計		
病院費用	1,536,047,000	500,000	0	1,536,547,000	1,412,878,410	1,470,744,968
医業費用	1,495,392,000	0	0	1,495,392,000	1,379,302,344	1,428,246,653
医業外費用	3,818,000	0	0	3,818,000	2,368,965	3,860,864
医療奉仕費用	410,000	500,000	0	910,000	694,186	334,437
付帯事業費用	34,427,000	0	0	34,427,000	30,344,319	35,097,248
特別損失	2,000,000	0	0	2,000,000	168,596	3,205,766
法人税等	0	0	0	0	0	0
予備費	0	0	0	0	0	0
収支差引額	△ 6,731,000	△ 500,000	0	△ 7,231,000	142,168,837	432,611,686

資本的収入および支出

（単位:円）

科　目	予算現額				決算額	令和4年度決算額
	当初予算額	補正予算額	前年度事業費繰越額	計		
病院収入	66,915,000	0	0	66,915,000	39,347,817	72,347,062
固定負債	16,000,000	0	0	16,000,000	13,950,000	36,976,000
その他資本収入	50,915,000	0	0	50,915,000	25,397,817	35,371,062

科　目	予算現額				決算額	令和4年度決算額
	当初予算額	補正予算額	前年度繰越事業費充当額	計		
病院費	66,915,000	0	0	66,915,000	39,347,817	72,347,062
固定資産	30,045,000	0	0	30,045,000	26,958,030	52,568,125
借入金等償還	36,870,000	0	0	36,870,000	12,389,787	19,778,937
収支差引額	0	0	0	0	0	0

利益剰余金

（単位:円）

当期未処分利益(損失)A(a+b)	前期繰越利益(損失) a	当期純利益(損失) b	利益積立金B	利益剰余金合計(A+B)
△ 148,072,163	△ 290,241,000	142,168,837	0	△ 148,072,163

Ⅲ　血液事業概要

静岡県赤十字血液センター

令和５年５月８日から新型コロナウイルスが５類感染症に移行し、県内では社会経済活動の制限が解除され、企業献血や学校献血の再開が本格的になった。また、令和 4 年９月に導入された献血カードアプリのサービス開始から 1 年が経過し、アプリの利用推進に取り組んだことで予約献血者が増え、年度末には目標である 70％まで予約率が上昇した。必要献血者数 129,380 人[*1] に対する実績は、100.9％の 130,568 人を確保する結果となった。

若年層対策としては、高校、大学の校内献血を積極的に実施するとともに、学生献血ボランティアの募集・育成、献血セミナーの開催などを通じて、引き続き献血啓発に努めた。

輸血用血液製剤の供給数は、昨年度と比べ血漿製剤、赤血球製剤、血小板製剤の 3 製剤とも増加し、447,360 単位で対前年比 104.2%となった。需要が増加する中、輸血用血液製剤の需要動向を注視し、県内の血液型別在庫状況を把握・管理を徹底するとともに、東海北陸ブロック血液センターと連携して的確な需要予測を行うことで輸血用血液製剤の安定供給と有効活用に努めた。

（1）献血及び供給状況の推移

年度	献血状況		供給状況	
	献血者数（人）	対前年比（%）	供給数（単位）	対前年比（%）
令和元年度	127,327	103.0	452,881	105.4
令和２年度	131,251	103.1	435,333	96.1
令和３年度	134,550	102.5	428,493	98.4
令和４年度	131,274	97.6	429,343	100.2
令和５年度	130,568	99.5	447,360	104.2

（2）献血者数及び献血率

職員数 (医師) R6.3.31 現在	献血可能 人口 R5.10 月現在	上段：必要献血者数（事業計画）(人) 下段：献血者数(人)				達成率	献血率	対前年比 献血者数
		200mL	400mL	成　分	合　計	(%)	(%)	(%)
静岡センター 81(1)	693,740	875	28,719	13,531	43,125	98.7	6.1	100.1
		1,402	**29,120**	**12,040**	**42,562**			
沼津事業所 65(0)	698,955	855	28,811	13,088	42,754	104.3	6.4	99.0
		2,011	**29,412**	**13,151**	**44,574**			
浜松事業所 58(0)	814,428	900	29,070	13,531	43,501	99.8	5.3	99.4
		1,796	**29,603**	**12,033**	**43,432**			
合　計 204(1) ＊2	2,207,123	2,630	86,600	40,150	129,380	100.9	5.9	99.5
		5,209	**88,135**	**37,224**	**130,568**			

＊1　必要献血者数（129,380 人）
　　ブロック内の需給見込みから割り当てられた静岡県での採血必要人数。
＊2　嘱託・パート含む実数

（3）供給単位数及び内訳

静岡県内への供給本数

区分 施設名	総供給数 (単位)	全血 製剤	構成比 (%)	赤血球 製　剤	構成比 (%)	血　漿 製　剤	構成比 (%)	血小板 製　剤	構成比 (%)
静岡センター	163,882	0	—	62,339	38.0	20,498	12.5	81,045	49.5
沼津事業所	134,359	0	—	59,088	44.0	14,461	10.8	60,810	45.3
浜松事業所	149,119	0	—	54,782	36.7	14,952	10.0	79,385	53.2
合　計	447,360	0	—	176,209	39.4	49,911	11.2	221,240	49.5

※「構成比」は端数処理しているため、合計が必ずしも 100%にはならない。

（4）献血推進運動

ア 愛の血液助け合い運動

７月１日から 31 日まで、国・都道府県・日本赤十字社の主催で多数の後援団体、協賛団体の協力を得て全国一斉に「愛の血液助け合い運動」を行った。

静岡県内における「愛の血液助け合い運動」では、県健康福祉部と協力して立て看板の設置や、ポスターを各市町、事業所等関係機関に配布し、啓発に努めた。

イ 全国学生献血キャンペーン

学生献血ボランティアが、７月と８月に「東海北陸ブロック統一学生サマー献血キャンペーン」、12 月に「全国学生クリスマス献血キャンペーン」を静岡市、富士宮市、浜松市において開催した。献血が不足する時期のキャンペーンは効果的であり、大学生たちが同年代の若者に献血への理解と協力を呼びかけた。

ウ はたちの献血キャンペーン

１月１日から２月 29 日まで、一般社団法人日本民間放送連盟、一般社団法人日本コミュニティ放送協会及び一般社団法人日本民営鉄道協会の協力を得て実施した。

また、若者に人気のイラストレーターたちが献血をテーマにしたオリジナルステッカーを作成し、キャンペーン期間中に献血に協力した方にプレゼントを行うことで、若年層に対して血液の知識、献血の重要性を訴えるなど、広くキャンペーンの周知を行った。

エ その他の事業

静岡県から「献血思想定着推進事業」を委託され、学生ボランティアの育成や支援などを実施した。学内献血未実施の高校 10 校を戸別訪問し「献血セミナー」の積極的な開催と学内献血の実施を依頼した結果、校内での呼びかけ強化や献血再開に向けて検討いただくこととなった。

オ 第 59 回献血運動推進全国大会

７月 26 日、千葉県の千葉ポートアリーナ　メインアリーナにおいて、献血運動推進全国大会（主催：厚生労働省・千葉県・日本赤十字社）が開催された。

カ 静岡県献血推進大会

７月２８日にグランシップ静岡において開催された。県民に献血への一層の協力を呼び掛けるとともに、日頃から献血推進に積極的に協力し貢献した団体に、厚生労働大臣表彰状および感謝状、静岡県知事褒章、日本赤十字社有功章、日本赤十字社静岡県支部長感謝状の贈呈が行われた。また、急性リンパ性白血病との闘病において輸血の経験があるモデル・タレントの友寄蓮さんから「ありがとう献血～100 回の輸血でつながれた命～」と題して、講演いただいた。

表彰団体数及び表彰者数

◆厚生労働大臣表彰状	３団体
◆厚生労働大臣感謝状	９団体
◆静岡県知事褒賞	９団体

◆日本赤十字社金色有功章　〈個人〉163 人　〈団体〉15 団体
◆日本赤十字社銀色有功章　〈個人〉308 人　〈団体〉15 団体
◆日本赤十字社静岡県支部長感謝状（金枠）　15 団体
◆日本赤十字社静岡県支部長感謝状（銀枠）　15 団体

（5）骨髄ドナー登録事業

骨髄バンク事業は、「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」に基づく骨髄・末梢血幹細胞提供あっせん事業者としての日本骨髄バンクが主体となり、日本赤十字社と都道府県等の協力により行われ、血液センターは骨髄提供希望者に対する登録受付及び登録データ管理業務を実施した。

本年度も静岡県及び骨髄バンクを推進する会と協力することにより、578 人の登録者を確保した。

登録者数
◆令和６年３月末現在　9,170 人（静岡県内）
554,123 人（全国）

Ⅳ　資料

1　静岡県支部役職員名簿・奉仕者組織役員名簿

＜役　員＞　　（令和６年３月31日現在）

役　名	氏　名	公　職
支　部　長	川　勝　平　太	静岡県知事
副　支　部　長	菊　地　　豊	伊豆市長
〃	込　山　正　秀	小山町長
〃	八　木　敏　裕	静岡県健康福祉部長
監　査　委　員	遠　藤　一　秀	遠藤科学株式会社　取締役会長
〃	鈴　木　雅　春	元 静岡県監査委員事務局長
理　　事	菊　地　　豊	伊豆市長
代　議　員	菊　地　　豊	伊豆市長
〃	込　山　正　秀	小山町長
〃	中　村　直　保	静岡市自治会連合会長
〃	廣　野　篤　男	浜松市自治会連合会会長
〃	小　木　絹　代	静岡県地域赤十字奉仕団委員会委員長
〃	松　永　　博	静岡県無線赤十字奉仕団委員長
〃	鈴　木　雅　春	元 静岡県監査委員事務局長

＜評議員＞　　（令和６年３月31日現在）

氏　名	職業及び公職	地区支部長選出別	備　考
難　波　喬　司	静岡市長	静　岡　市　選　出	
中　村　直　保	静岡市自治会連合会会長（駿河区）	静　岡　市　〃	本社代議員
田　宮　文　雄	静岡市自治会連合会副会長（清水区）	静　岡　市　〃	
中　野　祐　介	浜松市長	浜　松　市　〃	
（　欠　員　）		浜　松　市　〃	
加　藤　君　子	浜松市天竜赤十字奉仕団委員長	浜　松　市　〃	
頼　重　秀　一	沼津市長	沼　津　市　〃	
真　野　由里子	沼津市赤十字奉仕団委員長	沼　津　市　〃	
小長井　義　正	富士市長	富　士　市　〃	
秋　山　珠　美	富士市赤十字奉仕団委員長	富　士　市　〃	
齊　藤　　栄	熱海市長	熱　海　市　〃	
豊　岡　武　士	三島市長	三　島　市　〃	
須　藤　秀　忠	富士宮市長	富士宮市　〃	
小　野　達　也	伊東市長	伊　東　市　〃	

氏　名	職業及び公職	地　区 支部長　選出別	備　考
染　谷　絹　代	島田市長	島　田　市　〃	
草　地　博　昭	磐田市長	磐　田　市　〃	
中　野　弘　道	焼津市長	焼　津　市　〃	
久　保　田　崇	掛川市長	掛　川　市　〃	
北　村　正　平	藤枝市長	藤　枝　市　〃	
勝　又　正　美	御殿場市長	御殿場市　〃	
大　場　規　之	袋井市長	袋　井　市　〃	
松　木　正一郎	下田市長	下　田　市　〃	
村　田　　悠	裾野市長	裾　野　市　〃	
影　山　剛　士	湖西市長	湖　西　市　〃	
菊　地　　豊	伊豆市長	伊　豆　市　〃	副支部長／ 本社代議員
柳　澤　重　夫	御前崎市長	御前崎市　〃	
長谷川　寛　彦	菊川市長	菊　川　市　〃	
山　下　正　行	伊豆の国市長	伊豆の国市　〃	
杉　本　基久雄	牧之原市長	牧之原市　〃	
深　澤　準　弥	松崎町長	賀　茂　郡　〃	
仁　科　喜世志	函南町長	田　方　郡　〃	
込　山　正　秀	小山町長	駿　東　郡　〃	副支部長／ 本社代議員
田　村　典　彦	吉田町長	榛　原　郡　〃	
太　田　康　雄	森町長	周　智　郡　〃	
廣　野　篤　男	日本赤十字社静岡県支部協賛委員会会長	支部長選出	本社代議員
山　口　郊治郎	日本赤十字社静岡県有功会副会長	〃	
小　木　絹　代	静岡県地域赤十字奉仕団委員会委員長	〃	本社代議員
松　永　　博	静岡県無線赤十字奉仕団委員長	〃	本社代議員
柴　田　　久	(福) 静岡県共同募金会会長	〃	
神　原　啓　文	(福) 静岡県社会福祉協議会会長	〃	
横　山　秀　雄	(株) 静岡新聞社 常務取締役	〃	
夏　目　伸　二	静岡県青少年赤十字指導者協議会会長	〃	

（任期：令和４年２月14日～令和７年２月13日）

＜赤十字奉仕団静岡県支部委員会役員＞　（令和６年３月３１日現在）

役　名	氏　名	奉 仕 団 及 び 役 名
委 員 長	小　木　絹　代	静岡県地域赤十字奉仕団委員会委員長 浜松市浜北赤十字奉仕団委員長
副委員長	加　藤　君　子	静岡県地域赤十字奉仕団委員会副委員長 浜松市天竜赤十字奉仕団委員長
〃	松　永　　博	静岡県無線赤十字奉仕団委員長
〃	菅　沼　博　明	静岡県赤十字水上安全奉仕団委員長

（任期：令和５年５月２６日～令和７年５月２５日）

＜日本赤十字社静岡県支部協賛委員会役員＞　（令和６年３月31日現在）

役　名	氏　名	市　町 及 び 役 名
会　長	廣　野　篤　男	浜松市　静岡県自治会連合会会長
副会長	中　村　直　保	静岡市　静岡県自治会連合会副会長
〃	板　倉　福　男	湖西市　静岡県自治会連合会会計
〃	宮　﨑　寿　夫	富士市　富士市町内会連合会副会長

（任期：令和５年６月30日～令和７年６月29日）

＜日本赤十字社静岡県有功会役員＞　（令和６年３月31日現在）

役　名	氏　名	支 会 及 び 役 名
会　長	山　本　良　一	日本赤十字社静岡県有功会三島市支会会長
副会長	池　谷　滋　雄	日本赤十字社静岡県有功会富士宮市支会会長
〃	早　馬　義　光	日本赤十字社静岡県有功会御前崎市支会会長
〃	山　口　郊治郎	日本赤十字社静岡県有功会裾野市支会会長

（任期：令和５年５月30日～令和７年５月29日）

＜地域赤十字奉仕団結成状況＞　　（令和６年３月31日現在）

奉仕団名		委員長	団員数		
			男	女	計
1	下田市	大黒　愛子	0	40	40
2	伊東市	吉岡　マサエ	0	270	270
3	熱海市	大竹　順子	24	235	259
4	伊豆市	青木　恵子	1	99	100
5	伊豆の国市	角田　裕子	0	254	254
6	三島市	眞野　順子	2	42	44
7	沼津市	真野　由里子	9	126	135
8	裾野市	中村　禮子	0	261	261
9	御殿場市	比嘉　悦子	0	64	64
10	富士宮市	望月　勇	9	27	36
11	富士市	秋山　珠美	1	61	62
12	静岡市清水区	加藤　智代	6	51	57
13	静岡市葵・駿河区	水谷　倫子	10	265	275
14	焼津市焼津	山本　道子	0	208	208
15	焼津市大井川	横山　清美	4	90	94
16	藤枝市藤枝	菊川　厚代	18	50	68
17	藤枝市岡部	大須賀　直子	0	123	123
18	島田市	欠	0	135	135
19	牧之原市	八木　公代	7	299	306
20	御前崎市	村松　澄子	0	338	338
21	菊川市	山田　小津枝	1	65	66
22	掛川市	佐京　悟	5	292	297
23	袋井市	乗原　光子	1	46	47
24	磐田市	西谷　美代子	1	59	60
25	浜松市雄踏	髙橋　光子	0	28	28
26	浜松市引佐	森下　友子	0	5	5
27	浜松市三ヶ日	原　澄子	0	38	38
28	浜松市天竜	加藤　君子	8	147	155
29	浜松市春野	喚田　惠子	0	17	17
30	浜松市佐久間	平賀　むつみ	1	52	53
31	浜松市浜北	小木　絹代	2	42	44
32	湖西市	山口　萬知子	0	75	75
33	松崎町	佐藤　勝子	0	22	22
34	函南町	泉明寺　葉子	0	100	100
35	清水町	大島　るみ	0	25	25
36	長泉町	渡邉　靖子	14	98	112
37	小山町	和田　敬子	0	38	38
38	吉田町	塚本　里子	0	102	102
39	川根本町	中野　久江	0	93	93
40	森町	平岡　美和子	0	7	7
計			124	4,389	4,513

＜県支部・施設 幹部職員＞　（令和６年３月31日現在）

施設名	職名	氏名
日本赤十字社静岡県支部	事務局長	鈴木　亨
	事務局次長	梶山和彦
	総務課長（兼）	梶山和彦
	組織振興課長	橋本茂昭
	事業推進課長	脇田朱己
静岡赤十字病院	院長	小川　潤
	副院長	久保田英司
	副院長	稲葉浩久
	事務部長	山梨正人
	看護部長	下山美穂
浜松赤十字病院	院長	俵原　敬
	副院長	西脇　眞
	副院長	荻原弘晃
	副院長	竹内亮輔
	事務部長	落合　肇
	看護部長	小林ルミ
伊豆赤十字病院	院長	吉田　剛
	事務部長	板垣孝博
	看護部長	城所志津江
引佐赤十字病院	院長	山本隆久
	事務部長	東　日出也
	看護部長	伊藤宏子
裾野赤十字病院	院長	芦川和広
	事務部長	西川篤実
	看護部長	櫻井真理子
静岡県赤十字血液センター	所長	北折健次郎
	事務部長	加藤和彦
	事業推進部長	籏持俊洋
	沼津事業所長（兼）	籏持俊洋
	浜松事業所長（兼）	加藤和彦

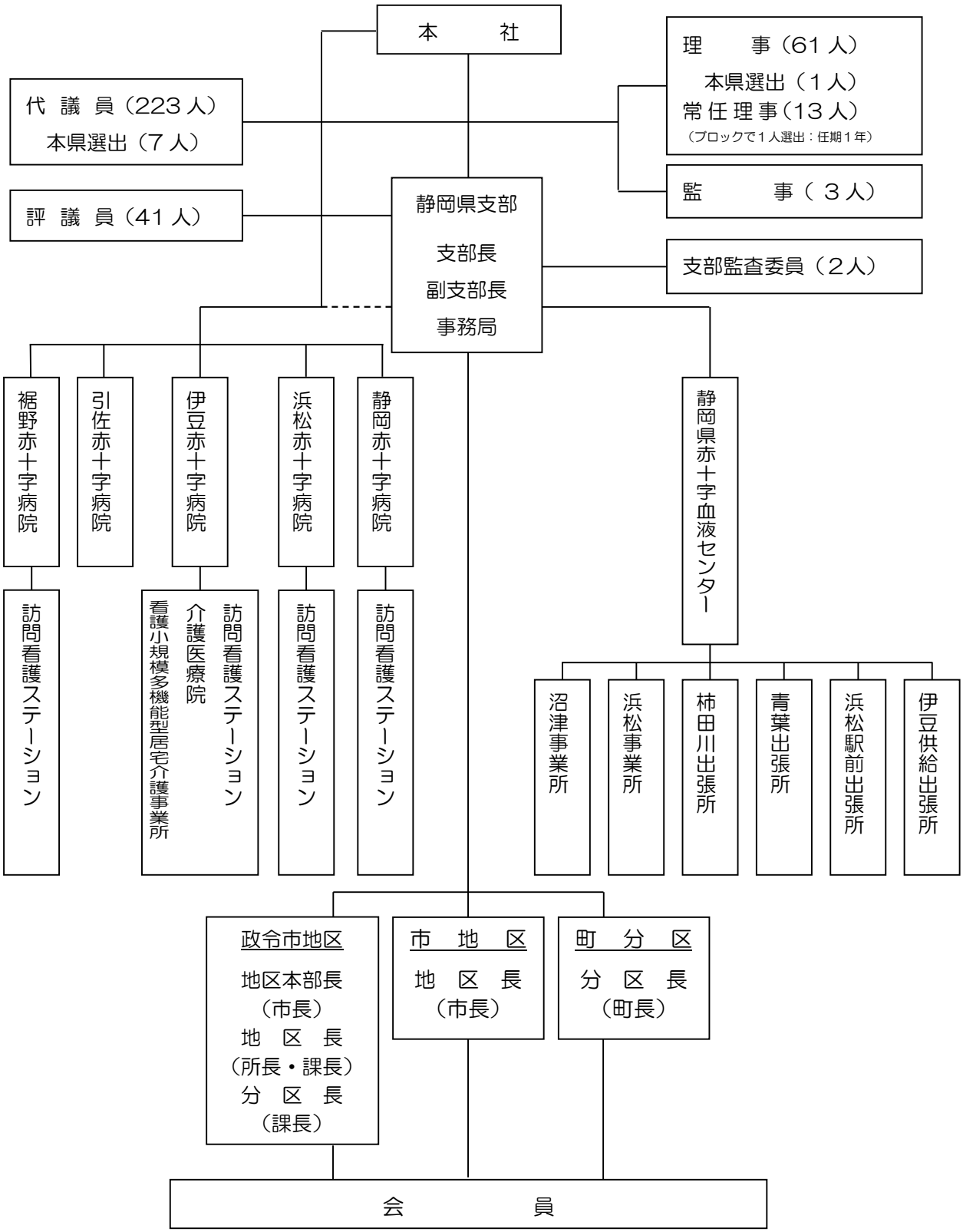
２　令和５年度主要行事一覧

月	日	行事名	開催場所
４月	１２日	地区分区赤十字運動打ち合わせ会	静岡県産業経済会館
	１９日	静岡県青少年赤十字指導者協議会評議員会	静岡県教育会館
	２０日	日本赤十字社静岡県支部協賛委員会	静岡県支部
	２４日	静岡県地域赤十字奉仕団委員会	静岡県産業経済会館
	２４日	地域赤十字奉仕団活性化委員会	静岡県支部
	25日~26日	県内赤十字施設新規採用職員研修	Web
	２７日	地区分区新任実務担当者研修会	静岡県支部
５月	１８日	全国赤十字大会	東京都
	２５日	赤十字奉仕団静岡県支部委員会	静岡県産業経済会館
	２６日	静岡県青少年赤十字指導担当者研修会	静岡県支部
	３０日	日本赤十字社静岡県有功会総会	パルシェ
	３１日	日本赤十字社静岡県支部監査委員監査	静岡県支部
６月	８日	日本赤十字社静岡県支部評議員会	静岡県支部
	16日・23日	救護員基礎研修	静岡県支部
	２３日	日本赤十字社理事会・代議員会	東京都
７月	７日	地域赤十字奉仕団ボランティア・リーダーシップ研修会（東部）	コンベンション沼津
	１３日	地域赤十字奉仕団ボランティア・リーダーシップ研修会（西部）	掛川グランドホテル
	２８日	静岡県献血推進大会	グランシップ
８月	22日~23日	県内赤十字施設中堅職員研修	Web
	２９日	静岡県総合防災訓練（本部運営訓練）	静岡県庁
９月	３日	静岡県・浜松市・湖西市総合防災訓練	浜松赤十字病院他
	６日	令和５年静岡県赤十字大会	グランシップ
	６日～７日	第３ブロック奉仕団委員長・担当者会議	岐阜県支部
	２０日	地域赤十字奉仕団活性化委員会	静岡県支部
	20日~21日	県内赤十字施設係長研修	Web
	３０日	静岡県支部・静岡赤十字病院合同災害救護訓練	静岡赤十字病院
１０月	４日～６日	日本赤十字社静岡県有功会視察研修	大分・熊本・佐賀県
	１１日	静岡県地域赤十字奉仕団委員会	静岡県支部
	１２日~13日	紺綬・有功会会長協議会総会	広島市
	２１日	第１１回赤十字救急法競技会	グランシップ
１１月	１３日	日本赤十字豊田看護大学支部長推薦選考試験	静岡県支部
	17日~18日	第３ブロック支部合同災害救護訓練	日本赤十字社愛知医療センター
			名古屋第二病院他
	18･19･24･25日	水上安全法指導員Ⅰ養成講習	静岡県立水泳場他
	２２日	日本赤十字社理事会	東京都
１２月	１日～25日	NHK 海外たすけあいキャンペーン	県内各地
２月	８日	日本赤十字社静岡県支部評議員会	静岡県支部
３月	５日・６日	炊き出しリーダー養成講習会	静岡県支部
	１５日	日本赤十字社理事会・代議員会	東京都

３　日本赤十字社静岡県支部の組織及び沿革

（1）組　織

（令和６年３月31日現在）



（2）沿　革

明治22年10月 静岡市駿府町に日本赤十字社静岡委員部発足
明治28年 1月 静岡委員部を静岡支部と改称
昭和 8年 6月 日本赤十字社静岡支部病院＜静岡赤十字病院＞開設
昭和 9年 7月 日本赤十字社静岡支部伊豆診療所＜伊豆赤十字病院＞開設
昭和13年 3月 日本赤十字社静岡支部浜松診療所＜浜松赤十字病院＞開設
昭和17年11月 日本赤十字社静岡支部中駿診療所＜中駿赤十字病院＞開設
昭和18年 1月 静岡赤十字病院発足
昭和20年 4月 浜松赤十字病院発足
昭和21年 6月 日本赤十字社静岡支部引佐診療所＜引佐赤十字病院＞開設
昭和26年 3月 引佐赤十字病院発足
昭和26年 8月 伊豆赤十字病院発足
昭和27年 7月 中駿赤十字病院発足
昭和27年10月 静岡支部を静岡県支部と改称
昭和28年 9月 静岡県支部静岡市追手町に移転
昭和38年10月 浜松療護園の経営管理を県より受託＜浜松リハビリテーションセンター＞
昭和39年10月 静岡県赤十字会館竣工
昭和39年11月 静岡県赤十字血液銀行＜静岡県赤十字血液センター＞開設
昭和39年12月 静岡県赤十字血液センター発足
昭和40年 7月 静岡県赤十字血液センター浜松出張所＜浜松赤十字血液センター＞開設
昭和45年 4月 静岡県赤十字血液センター沼津出張所＜沼津赤十字血液センター＞開設
昭和45年 5月 浜松赤十字血液センター独立開設
昭和57年 3月 静岡県赤十字血液センター 静岡市北安東に新築（移転）工事竣工
昭和60年 2月 静岡赤十字病院本館増改築工事竣工
昭和61年 4月 浜松療護園を浜松リハビリテーションセンターに改称
昭和63年 3月 静岡県沼津赤十字血液センター新築工事竣工
昭和63年 5月 浜松赤十字血液センター浜松駅出張所＜メイ・ワン献血ルーム＞開設
平成 2年 4月 静岡県赤十字血液センター青葉出張所＜あおば献血ルーム＞開設
平成 4年 5月 静岡赤十字病院救命救急センター開設
平成 7年 3月 静岡赤十字看護専門学校 静岡市与一に新築移転
平成 8年 3月 引佐赤十字病院新築・改装工事竣工
平成 8年10月 静岡県沼津赤十字血液センター沼津駅前出張所＜献血ルームパレット＞開設
平成 8年11月 静岡赤十字病院災害拠点病院＜地域災害医療センター＞に県より指定
平成 9年 3月 伊豆赤十字病院新改築工事竣工
平成 9年 6月 静岡赤十字病院別館増改築工事竣工
平成 9年 7月 中駿赤十字病院を裾野赤十字病院に改称
平成 9年12月 裾野赤十字病院増改築工事竣工
平成10年 3月 日本赤十字社静岡県支部新社屋建築工事竣工

平成11年 1月 浜松赤十字血液センター耐震総改築工事竣工
平成12年 3月 浜松赤十字血液センター浜松駅前出張所 ＜献血ルームみゅうず＞移転開設
平成12年 4月 県内血液センターの一体化に伴い、浜松赤十字血液センターを静岡県浜松赤十字血液センターと改称
平成13年 3月 静岡県赤十字血液センター青葉出張所 ＜献血ルームあおば＞移転開設
平成14年 3月 浜松リハビリテーションセンター廃園
平成14年 4月 伊豆赤十字病院介護老人保健施設＜グリーンズ修善寺＞開設
平成15年 3月 静岡県沼津赤十字血液センター沼津駅前出張所＜献血ルームエイブル＞移転開設
平成16年 3月 静岡県赤十字血液センター事務棟増築改修工事竣工
平成17年 3月 静岡赤十字看護専門学校閉校
平成19年11月 浜松赤十字病院　浜松市浜北区小林に移転開院
平成24年 3月 血液事業のブロックセンター設置に伴い静岡県沼津赤十字血液センター及び静岡県浜松赤十字血液センターを廃止（平成24年4月より事業所として運営）
平成24年 7月 静岡県赤十字血液センター沼津事業所柿田川出張所＜献血ルーム・柿田川＞移転開設
平成24年11月 静岡赤十字病院３号館竣工
平成25年 7月 浜松赤十字病院災害拠点病院＜地域災害医療センター＞に県より指定
平成26年 1月 静岡赤十字病院１号館（北側部分）竣工
平成26年 4月 静岡県赤十字血液センター伊豆供給出張所開設
平成26年10月 浜松赤十字病院内支部災害救護倉庫竣工
平成27年11月 静岡赤十字病院１号館（南側部分）竣工
平成28年11月 静岡赤十字病院（全面）竣工
平成31年 4月 静岡赤十字病院＜しずおか日赤訪問看護ステーション＞開設
平成31年 4月 伊豆赤十字病院看護小規模多機能型居宅介護事業所＜レクロス小立野＞開設
令和元年 5月 静岡県赤十字血液センター 静岡市葵区竜南に新築（移転）工事竣工
令和3年 5月 伊豆赤十字病院介護老人保健施設＜グリーンズ修善寺＞を介護医療院へ転換

４　日本赤十字社静岡県支部施設一覧

（令和６年３月31日現在）

施設名	所在地	電話番号
日本赤十字社静岡県支部	〒420-0853 静岡市葵区追手町 44-17	054-252-8131
静岡赤十字病院	〒420-0853 静岡市葵区追手町 8-2	054-254-4311
しずおか日赤訪問看護ステーション	〒420-0032 静岡市葵区両替町 1-7-5	054-254-4500
浜松赤十字病院	〒434-8533 浜松市浜名区小林 1088-1	053-401-1111
日赤訪問看護ステーション	〒434-8533 浜松市浜名区小林 1088-1	053-585-3676
伊豆赤十字病院	〒410-2413 伊豆市小立野 100	0558-72-2148
伊豆赤十字病院介護医療院	〒410-2413 伊豆市小立野 100-2	0558-74-3300
訪問看護ステーション伊豆日赤	〒410-2413 伊豆市小立野 100-2	0558-72-8337
看護小規模多機能型居宅介護事業所 レクロス小立野	〒410-2413 伊豆市小立野 100-2	0558-72-0960
引佐赤十字病院	〒431-2213 浜松市浜名区引佐町金指 1020	053-542-0115
裾野赤十字病院	〒410-1118 裾野市佐野 713	055-992-0008
訪問看護ステーション すその日赤	〒410-1118 裾野市佐野 713	055-993-5070
静岡県赤十字血液センター	〒420-0804 静岡市葵区竜南 1-26-19	054-247-7141
青葉出張所 （献血ルーム・あおば）	〒420-0035 静岡市葵区七間町 8-20 毎日江崎ビル 6F	054-272-5858
静岡県赤十字血液センター沼津事業所	〒410-0302 沼津市東椎路春ノ木 567	055-924-6611
柿田川出張所 （献血ルーム・柿田川）	〒411-0907 駿東郡清水町伏見 58-26	055-991-7575
静岡県赤十字血液センター浜松事業所	〒435-0003 浜松市中央区中里町 1013	053-422-1113
浜松駅前出張所 （献血ルーム･みゅうず）	〒430-0928 浜松市中央区板屋町 110-5 浜松第一生命日通ビル１F	053-413-2070
伊豆供給出張所	〒410-2413 伊豆市小立野 100	0558-73-2700

5　医療施設概況

（令和６年３月31 日現在）

病院名		静岡赤十字病院	浜松赤十字病院	伊豆赤十字病院	引佐赤十字病院	裾野赤十字病院
所在地		静岡市葵区追手町8-2	浜松市浜名区小林1088-1	伊豆市小立野100	浜松市浜名区引佐町金指 1020	裾野市佐野 713
開設年月日		昭和８年６月11 日	昭和13年３月17日	昭和９年７月１日	昭和21 年６月１日	昭和 17 年 11 月１日
病床数	許可病床	465 床	312 床	84 床	99 床	104 床
	実働病床	465 床	277 床	84 床	99 床	104 床
診療科		28 科	23科	７科	３科	６科
		内科 血液内科 糖尿病・代謝内科 精神科 脳神経内科 リウマチ科 呼吸器内科 消化器内科 循環器内科 小児科 呼吸器外科 外科 整形外科 形成外科 脳神経外科 心臓血管外科 皮膚科 泌尿器科 産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 頭頸部外科 消化器外科 病理診断科 放射線科 リハビリテーション科 麻酔科 救急科	内科 呼吸器内科 消化器内科 循環器内科 小児科 外科 肛門外科 血管外科 乳腺外科 整形外科 脳神経外科 形成外科 皮膚科 泌尿器科 産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 麻酔科 放射線科 リハビリテーション科 歯科口腔外科 精神科 病理診断科	内科 精神科 小児科 外科 整形外科 泌尿器科 婦人科	内科 整形外科 リハビリテーション科	内科 外科 整形外科 婦人科 放射線科 リハビリテーション科
特色※		救命、工拠、臓、地災、地援、訪	工拠、地災、地援、訪、包	介医、訪、療、包、看多機	療	感、訪、包
救急告示日		昭和 41 年３月31 日	昭和 41 年 10 月１日	昭和 41 年 11 月 25 日	―	昭和 43 年 11 月 29 日

※救命：救命救急センター　工拠：エイズ治療拠点病院　臓：臓器提供施設　地災：地域災害拠点病院
地援：地域医療支援病院　感：第２種感染症指定医療機関　介医：介護医療院　訪：訪問看護ステーション
療：療養病床　包：地域包括ケア病棟・病床　看多機：看護小規模多機能型居宅

変わりゆく未来へ、赤十字の挑戦

誰一人取り残さない救援

災害に強い地域づくり

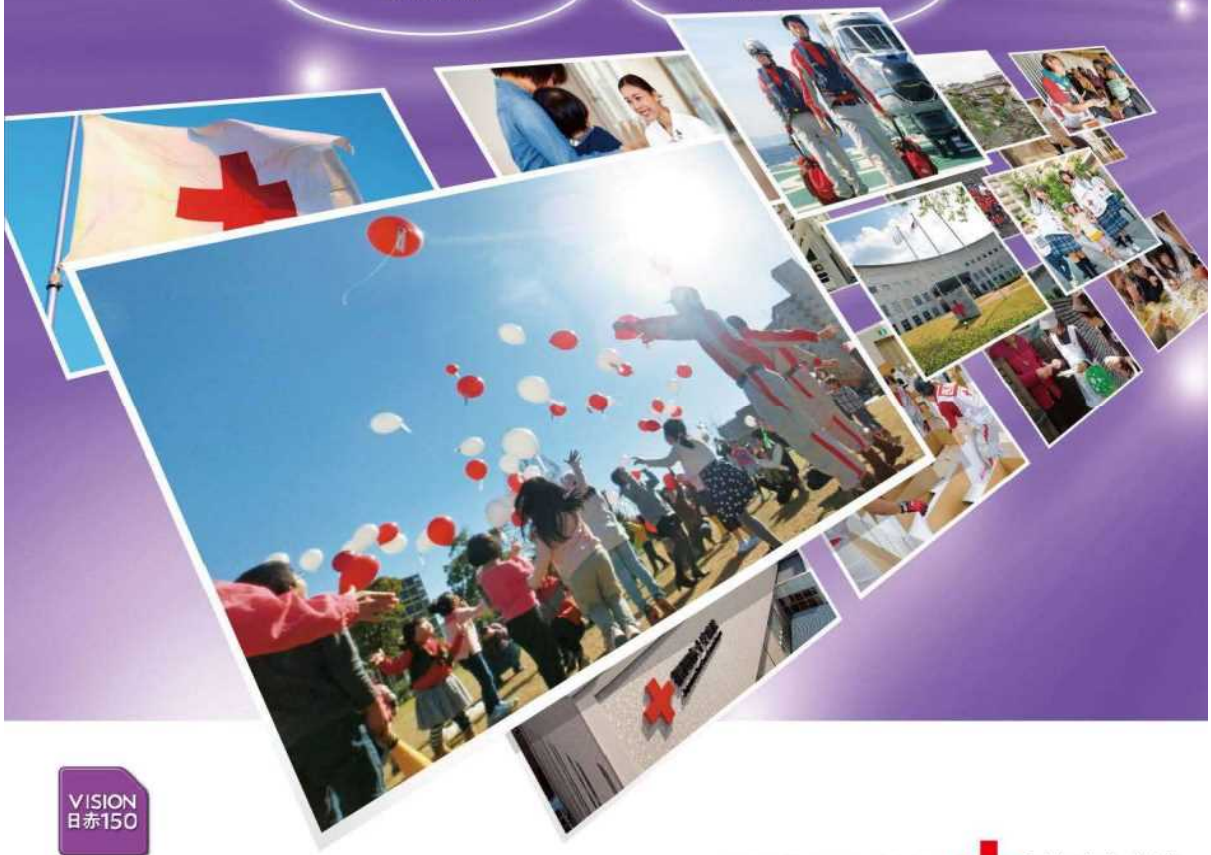
地域で真に必要とされる社会活動

高度医療・超少子高齢社会に挑む地域の中核病院

血液事業を通じた医療・健康増進への貢献

ボランティア主体の事業展開

被支援者の側に立った選択と集中



VISION 日赤150

日本赤十字社 長期ビジョン

人間を救うのは、人間だ。

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

この印刷物は、みなさまからいただいた資金で作っています。